

定留遺跡田畑地区

中津市文化財調査報告 第35集

2005

中津市教育委員会

卷頭図版 1



定留遺跡畑地区第2地点

卷頭図版 2



定留遺跡畑地区第3地点

巻頭図版 3



定留遺跡田畑地区第3地点から周防灘を望む

例 言

- 一、本書は1999年度（平成11年度）に実施した、県営農村振興総合整備事業（定留、諸田地区）に伴う発掘調査報告書である。
- 一、調査は大分県下毛地方振興局の委託を受け、中津市教育委員会が実施した。
- 一、調査の整理作業は2003年度に実施した。
- 一、現場の遺構図面、写真撮影は花崎徹（中津市教育委員会）が行った。
- 一、遺物整理作業は岩崎弘子、掛布玲子、長岡早苗、菅充子、槇仙花、岡田由美恵、岡田章子、小田久美子、酒井千幸が行った。
- 一、遺物の実測、写真撮影、遺物観察表は雅企画有限会社が行った。
- 一、遺構の製図は金丸孝子（中津市歴史民俗資料館）が行った。
- 一、空中写真は㈱スカイサーベイに委託した。
- 一、本書の執筆編集は花崎が行った。
- 一、本書の作成にあたり金丸、篠原紫芳（中津市歴史民俗資料館）の協力を得た。
- 一、発掘現場で真野和夫氏（大分県立先哲資料館副館長）の助言をいただいた。

調査団の構成

調査の体制は以下の通りである。

調査主体	中津市教育委員会		
調査責任者	前田 佳毅（中津市教育委員会教育長 平成13年1月31日まで）		
	於久 孝正（中津教育委員会教育長職務代行者管理課長 平成13年3月31日まで）		
	武吉 勝也（中津市教育委員会教育長 平成15年11月20日まで）		
	城戸崎九一（中津教育委員会中津市教育長職務代行者 中津教育委員会管理課長 平成16年3月1日まで）		
	影木莊一郎（中津市教育委員会教育長 平成16年3月2日より）		
調査事務	尾畑 豊彦（中津市教育委員会市民文化センター館長）		
	田中布由彦（同 係長 平成16年12月31日まで）		
	保科 眞（同 係長）		
	富田 修司（同 主査）		
	高崎 章子（同 主査）		
調査担当	花崎 徹（同 主任）		

現場作業は下記の方々への協力による。（順不同、敬称略）

泉貞世、植山トミ子、植山京子、植山ヨシカ、宮崎真理、長岡久美子、黒川ミユキ、黒川洋美、松本勲、今永キク子、徳永賀子、花田郁夫、田畑友子、田畑つね子、高松秀子、松本貞子、田中静江、羽立えり、筒井奈津子、田畑恵、菊池充、宇都宮大地、友松美涼、羽立ヒロ子、田中浩幸、羽立加代、羽立由利子、宮久君子、木下みずほ、辛島雅美

目 次

巻頭図版

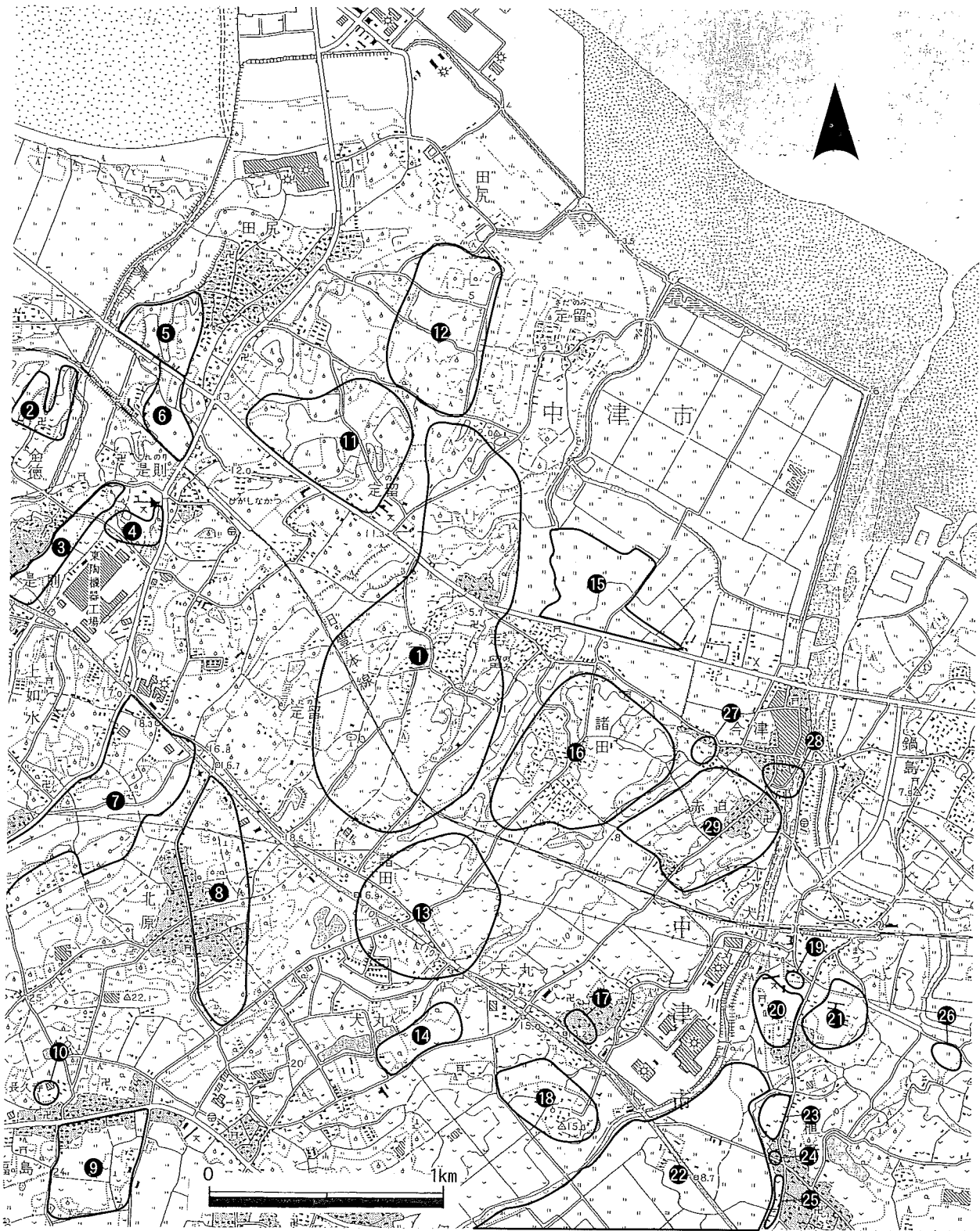
例言

第1章 地理と歴史的環境	1
第2章 試掘調査	3
(1) 調査に至る経緯	3
(2) 調査の概要	6
(3) 試掘トレンチ出土遺物	9
第3章 本調査	12
(1) 本調査を要する範囲	12
(2) 第1地点	12
遺構	12
(3) 第2地点	13
遺構	13
第2地点出土遺物	19
(4) 第3地点	19
遺構	19
第3地点出土遺物	37
(5) 遺物観察表	39
(6) 小結	46

挿 図 目 次

第 1 図	定留遺跡周辺遺跡図	(S=1/25,000)	1
第 2 図	定留遺跡位置図	(S=1/25,000)	3
第 3 図	調査区トレンチ位置図	(S=1/2,500)	4・5
第 4 図	試掘トレンチ出土遺物	(S=1/3)	7
第 5 図	試掘トレンチ出土遺物	(S=1/3)	8
第 6 図	試掘トレンチ出土遺物	(S=1/3)	9
第 7 図	第 1 地点 調査区全体図	(S=1/200)	10・11
第 8 図	本調査区位置図		12
第 9 図	第 1 地点 SD-1、2土層図	(S=1/40)	12
第10図	第 1 地点 SK-1図	(S=1/40)	13
第11図	第 2 地点 調査区全体図	(S=1/200)	14・15
第12図	第 2 地点 SH-1図	(S=1/40)	16
第13図	第 2 地点 SH-1出土遺物	(S=1/3)	17
第14図	第 2 地点 SK-1図	(S=1/40)	17
第15図	第 2 地点 SB-1、2図	(S=1/60)	18
第16図	第 2 地点 調査区出土遺物	(S=1/3)	19
第17図	第 3 地点 調査区全体図	(S=1/200)	20・21
第18図	第 3 地点 SK-1図	(S=1/40)	22
第19図	第 3 地点 SK-1出土遺物	(S=1/3)	23
第20図	第 3 地点 SK-1出土遺物	(S=1/3)	24
第21図	第 3 地点 SK-2図	(S=1/40)	25
第22図	第 3 地点 SK-2出土遺物	(S=1/3)	26
第23図	第 3 地点 SK-3図	(S=1/40)	27
第24図	第 3 地点 SK-3出土遺物	(S=1/3)	28
第25図	第 3 地点 SK-3出土遺物	(S=1/3)	29
第26図	第 3 地点 SK-3出土遺物	(S=1/3)	石器 (S=1/2)	30
第27図	第 3 地点 SK-4、5、6、7図	(S=1/40)	32
第28図	第 3 地点 SK-6出土遺物	(S=1/3)	32
第29図	第 3 地点 SB-1図	(S=1/60)	34
第30図	第 3 地点 SB-2図	(S=1/60)	34
第31図	第 3 地点 SB-3図	(S=1/60)	35
第32図	第 3 地点 SB-4図	(S=1/60)	35
第33図	第 3 地点 SB-5図	(S=1/60)	36
第34図	第 3 地点 SB-6図	(S=1/60)	36
第35図	第 3 地点 SB-7図	(S=1/60)	37
第36図	第 3 地点 SB-7出土遺物	(S=1/3)	37
第37図	第 3 地点 調査区出土遺物	(S=1/3)	石器 (S=1/2)	38

第1章 地理と歴史的環境



第1図 定留遺跡周辺遺跡図 (S=1/25,000)

- | | | | | |
|-------------|-------------|-----------|-------------|------------|
| 1. 定留遺跡 | 7. 大悟法地区条里跡 | 13. 諸田南遺跡 | 19. 若旗古墳 | 25. 野依古城遺跡 |
| 2. 全徳遺跡 | 8. 北原遺跡 | 14. 上畑成遺跡 | 20. 若旗遺跡 | 26. 古田遺跡 |
| 3. 舞手川流域遺跡 | 9. 三保遺跡 | 15. 天貝川遺跡 | 21. 中須遺跡 | 27. 岩丸城跡 |
| 4. 安松遺跡 | 10. 田丸遺跡 | 16. 諸田遺跡 | 22. 野依地区条里跡 | 28. 末広城跡 |
| 5. 舞手橋東段上遺跡 | 11. 是能遺跡 | 17. 犬丸城跡 | 23. 植野伽藍遺跡 | 29. 十前垣遺跡 |
| 6. 是則遺跡 | 12. 田尻大迫遺跡 | 18. 中尾城跡 | 24. 植野貝塚 | |

中津市は大分県の北部に位置し人口約67,000人、市域面積56.05km²である。平成16年度にダイハツ工業の操業、平成17年3月1日に大分県下毛郡4町村との合併を控える。中津市の東は宇佐市、西は山国川を挟んで福岡県築上郡、南は下毛郡、北は周防灘に面する。地形は沖積平野と洪積台地に大別される。今回の調査区定留遺跡田畑地区は洪積台地上に位置し、舌状の台地が北へ延びる。また調査区の東側には八面山を源流とする犬丸川が流れ、古代から中世に至る遺跡はこの流域に存在する。ここで周辺の遺跡を概観してみる。

旧石器時代の遺跡は才木遺跡、樋田多遺跡などが挙げられる。資料はいずれも後期旧石器時代に属する。

縄文時代の遺跡は黒水遺跡、諸田遺跡、植野貝塚、入垣貝塚、ボウガキ遺跡などが挙げられる。諸田遺跡は縄文時代前期の陥穴と思われる遺構が検出された。ボウガキ遺跡では縄文時代後期の竪穴住居跡、土坑墓が検出され大分県指定の史跡に指定されている。ボウガキ遺跡に隣接する入垣貝塚はセツトとしてとらえられる。

弥生時代の遺跡は福島遺跡、定留遺跡、野依遺跡などが挙げられる。福島遺跡では二列埋葬の墓坑群、祭祀土坑などが検出されこれに伴う土器が大量に出土した。また台地の南側で確認調査により推定で直線150mの溝状遺構が検出され弥生時代中期の土器が検出されている。定留遺跡、野依遺跡は弥生時代の遺物包蔵地として周知される。

古墳時代の遺跡は野依伊藤田窯跡群、若旗古墳、岩井崎横穴墓群、十前垣遺跡などが挙げられる。野依伊藤田窯跡群では6世紀後半から8世紀に至る須恵器、瓦の生産が認められる。岩井崎横穴墓群は52基の横穴が開口した状態である。十前垣遺跡は6世紀後半の散在型集落で、竪穴住居が5軒検出され、土師器の竈が出土した。

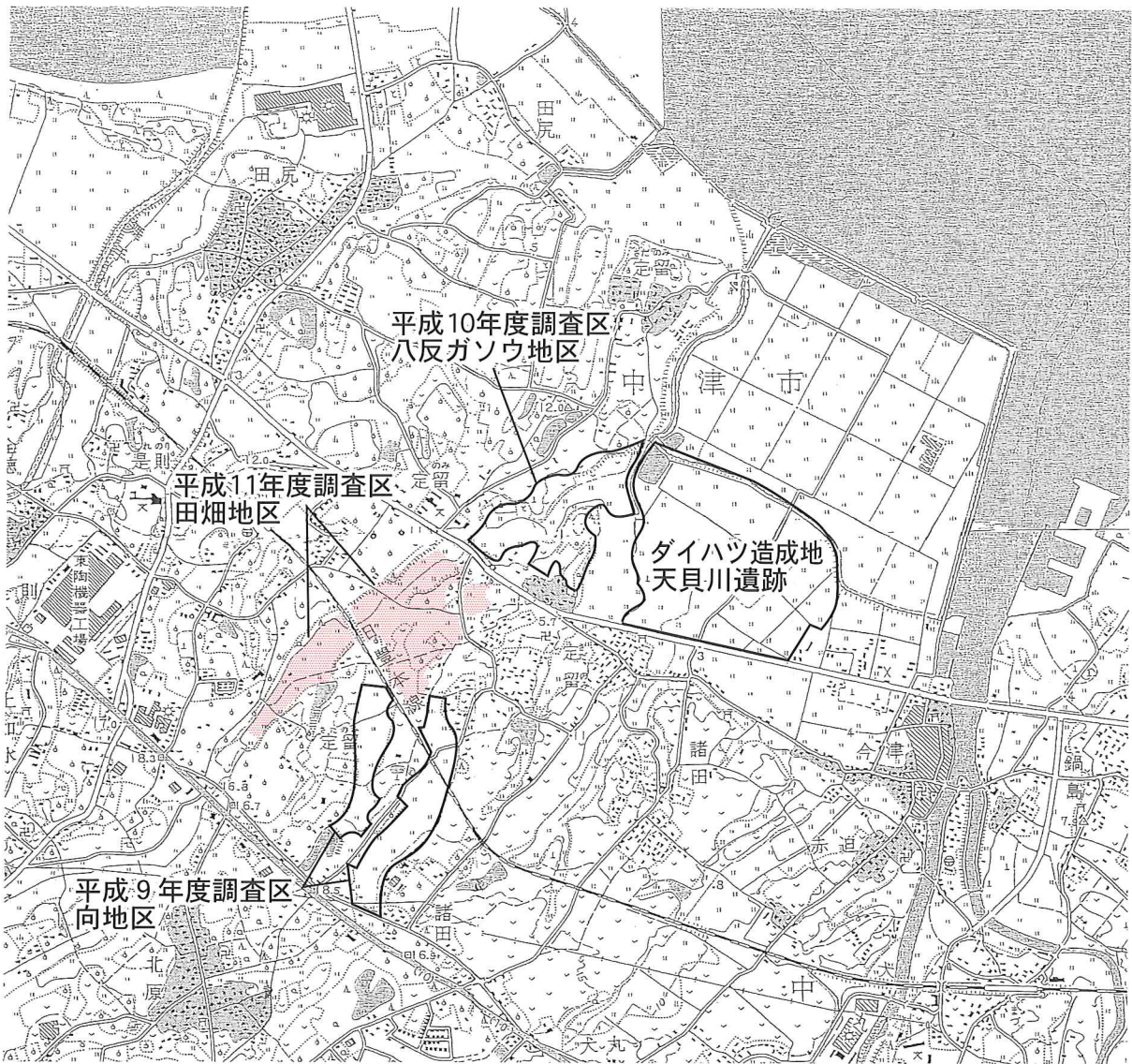
奈良時代の遺跡は野依条里、定留遺跡、長者屋敷遺跡などが挙げられる。定留遺跡では蛸壺焼成坑が検出され、海に係わる集団の存在が確認された。長者屋敷遺跡は大型の掘立柱建物が検出され下毛郡の正倉と推定される。

中世の遺跡は諸田遺跡、定留遺跡、犬丸城跡、中尾城跡などが挙げられる。諸田遺跡では平成13年度の農業基盤整備に伴う発掘調査が実施され溝状遺構に囲まれた中世の居館跡が検出された。周辺の地形や小字から岩丸城跡の存在が推測される。定留遺跡でも同様の遺跡が検出された。中津市内では中世の城館が32箇所、周知される。16世紀、下野国の宇都宮氏が豊前の地頭として入り秀吉の全国統一まで勢力をふるったとされる。

<参考文献>

- | | | |
|------------|------|---------------------|
| 『ボウガキ遺跡』 | 1992 | 三保の文化財を守る会 中津市教育委員会 |
| 『犬丸川流域遺跡群』 | 1997 | 中津市教育委員会 |
| 『石堂池遺跡』 | 1998 | 中津市教育委員会 |

第2章 試掘調査

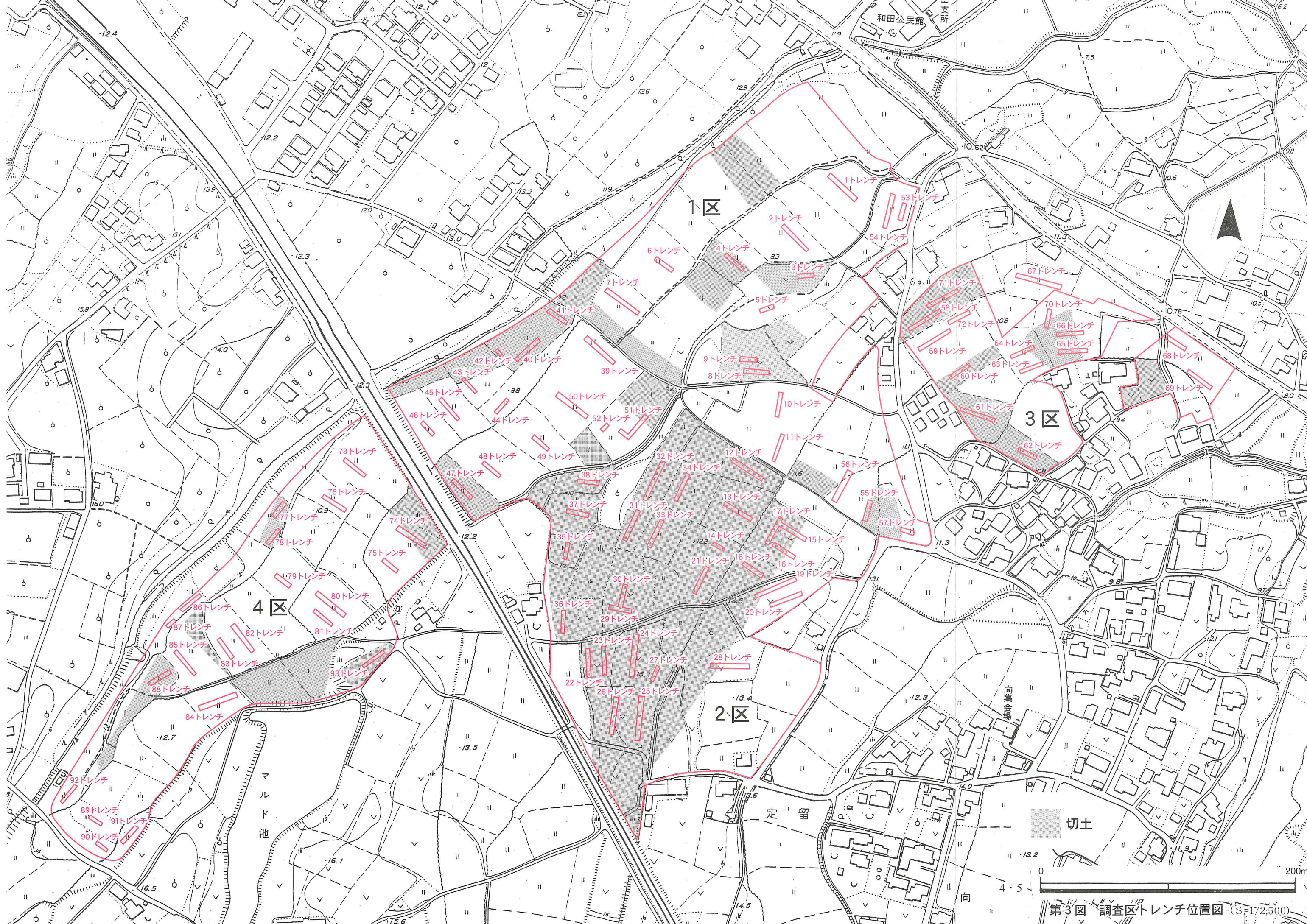


第2図 定留遺跡位置図 (S=1/25,000)

(1) 調査に至る経緯

定留遺跡は中津市の北東部に位置し、標高13mほどの台地上に立地する。弥生、古墳時代の遺物包蔵地として周知される。平成9年度より定留、諸田地区の農業生産の向上、生活環境の整備を図るため県営農村振興総合事業が計画され事前に埋蔵文化財の試掘調査が実施された。平成9年度調査区定留遺跡向地区では、古墳時代の竪穴住居が1軒検出された。周辺をトレンチ確認したが遺構、遺物とも検出できなかった。またこの周辺は工事で破壊されることはなく本調査には至らなかった。平成10年度調査区定留遺跡八反ガソウ地区は丘陵地で古墳時代から中世に至る遺跡の存在が確認され、本調査が実施された。調査区内から蛸壺焼成坑、竪穴住居、掘立柱建物、横穴式石室などが検出され古代沿岸部の集落が発掘された。

平成11年度、向地区と八反ガソウ地区の間に位置する田畑地区の県営農村振興総合事業が計画され、事前に試掘調査を実施した。



第3図 調査区トレンチ位置図 (S=1/2,500)

(2) 調査の概要

調査は重機による掘削で、トレンチを設定して行った。第3図は平成11年度調査区である。調査区が広いため4つに区画して試掘を行った。1区はJRを挟んで北東側の谷部、2区は台地、3区は調査区東側の台地、4区はJRを挟んで南西の谷部とした。調査区内で93本のトレンチを掘削し遺構検出を試みた。



41トレンチ溝

1区

1区の標高は約8mで2区との標高差が約5mである。1区北西側の台地も同様に、谷状の地形である。1区北側よりトレンチを掘削し調査を進めた。調査当初この谷に丘陵地からの土器の流れ込みが推測されたが遺物は僅かであった。41トレンチから溝状の遺構を検出した。溝の幅は約1.5mで南西方向にのびる。42トレンチからも溝状遺構を検出した。この周辺は工事で切土されることから本調査の対象とした。



67トレンチ



田畑地区 71トレンチ

2区

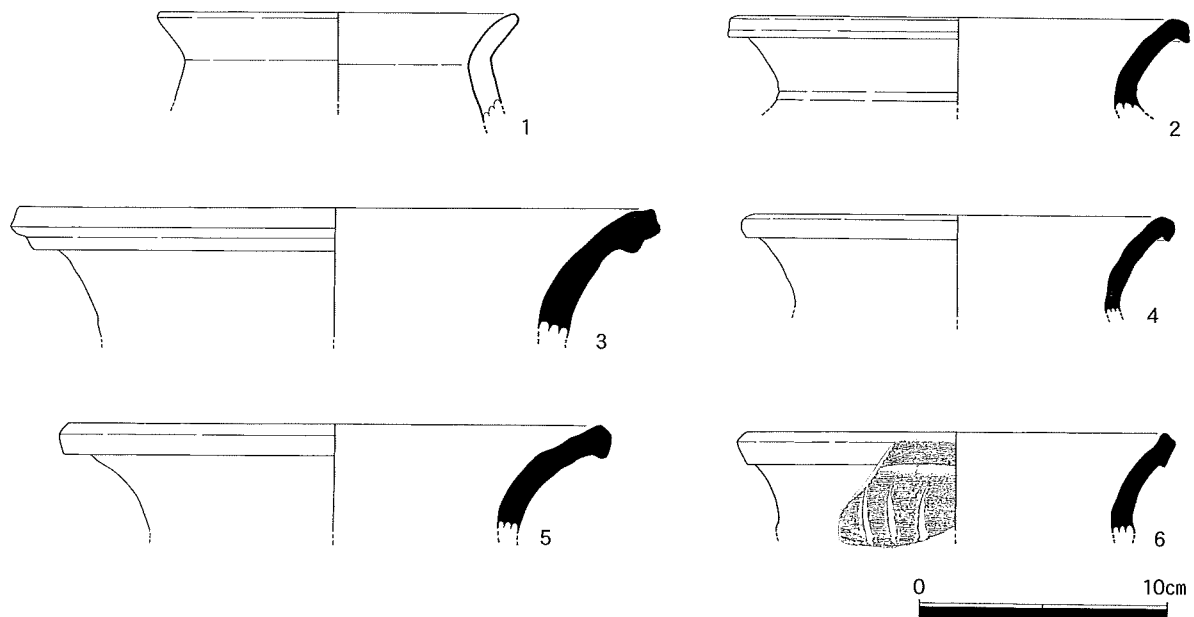
2区は台地で遺跡の存在が期待された。工事で切土される場所にトレンチを集中して設定した。2区南側は平成9年度の試掘調査で竪穴住居が1基検出された地点に隣接し、古代の遺跡の広がりが見込まれた。トレンチを掘削した結果、2区の北側では遺物遺構とも検出されなかった。2区の北側は聞き取りにより昭和初期に土取りが行われたことが判明した。この時土器が掘り出されたことも聞き取られた。2区南側は25、26トレンチでピット状遺構と遺物を検出した。25、26トレンチの北側に4本のトレンチを掘削したが遺構、遺物とも検出できず本調査の対象を25、26トレンチ周辺に絞った。

3区

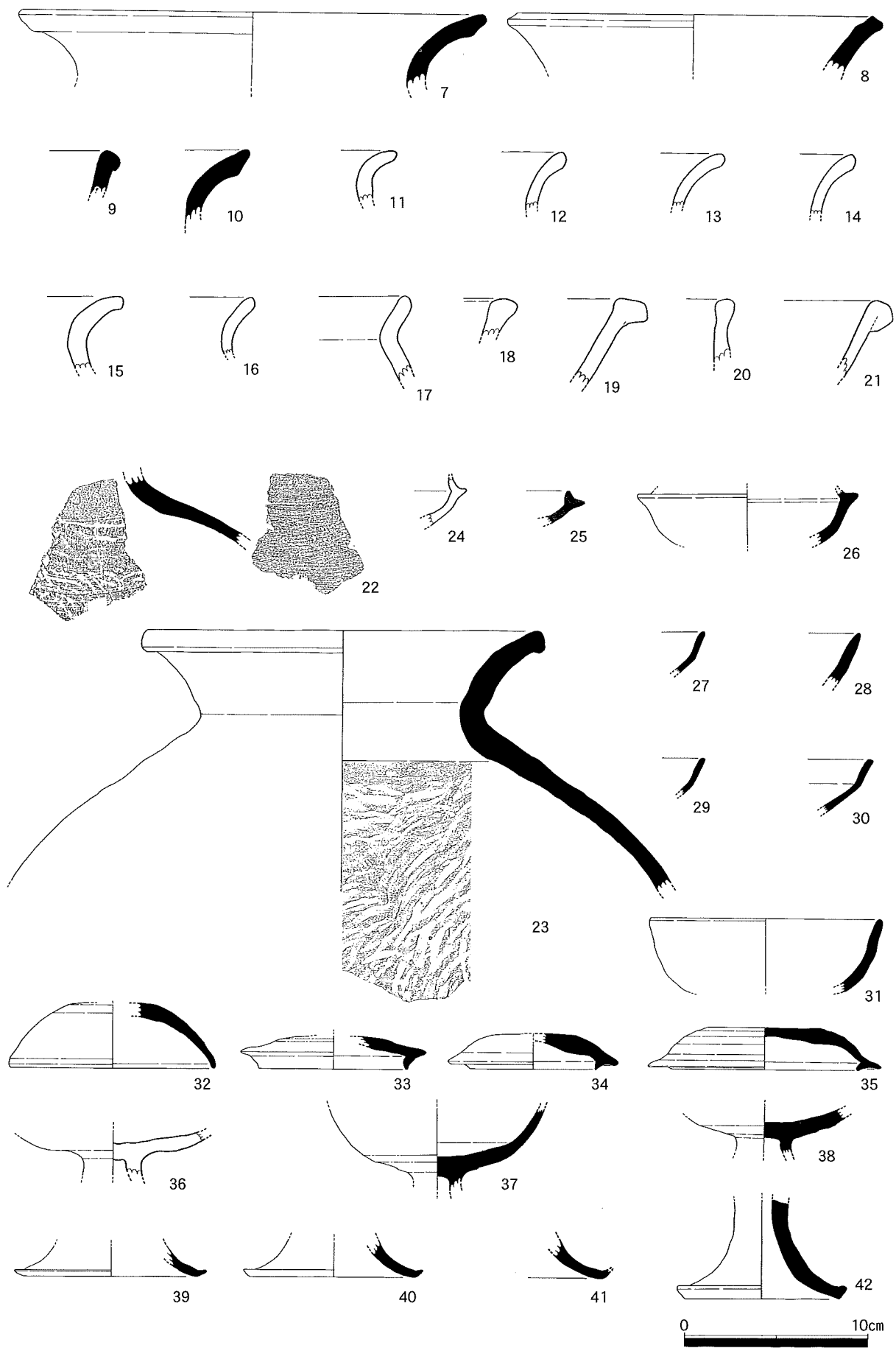
3区は平成10年度調査区八反ガソウ地区に隣接する。58トレンチ、71トレンチ周辺でピット状遺構、遺物を検出した。しかし、58トレンチ71トレンチの東側は耕作土が約70cm下がる。聞き取りによるとこの地点も昭和初期に土取りが行われたことが判明した。58トレンチ、71トレンチ周辺は本調査の対象とした。67トレンチで大量の土器が出土し溝状遺構と竪穴状の遺構を検出した。67トレンチ周辺は工事で遺構が破壊されないことから遺物を取り上げたのみで調査を終了した。

4区

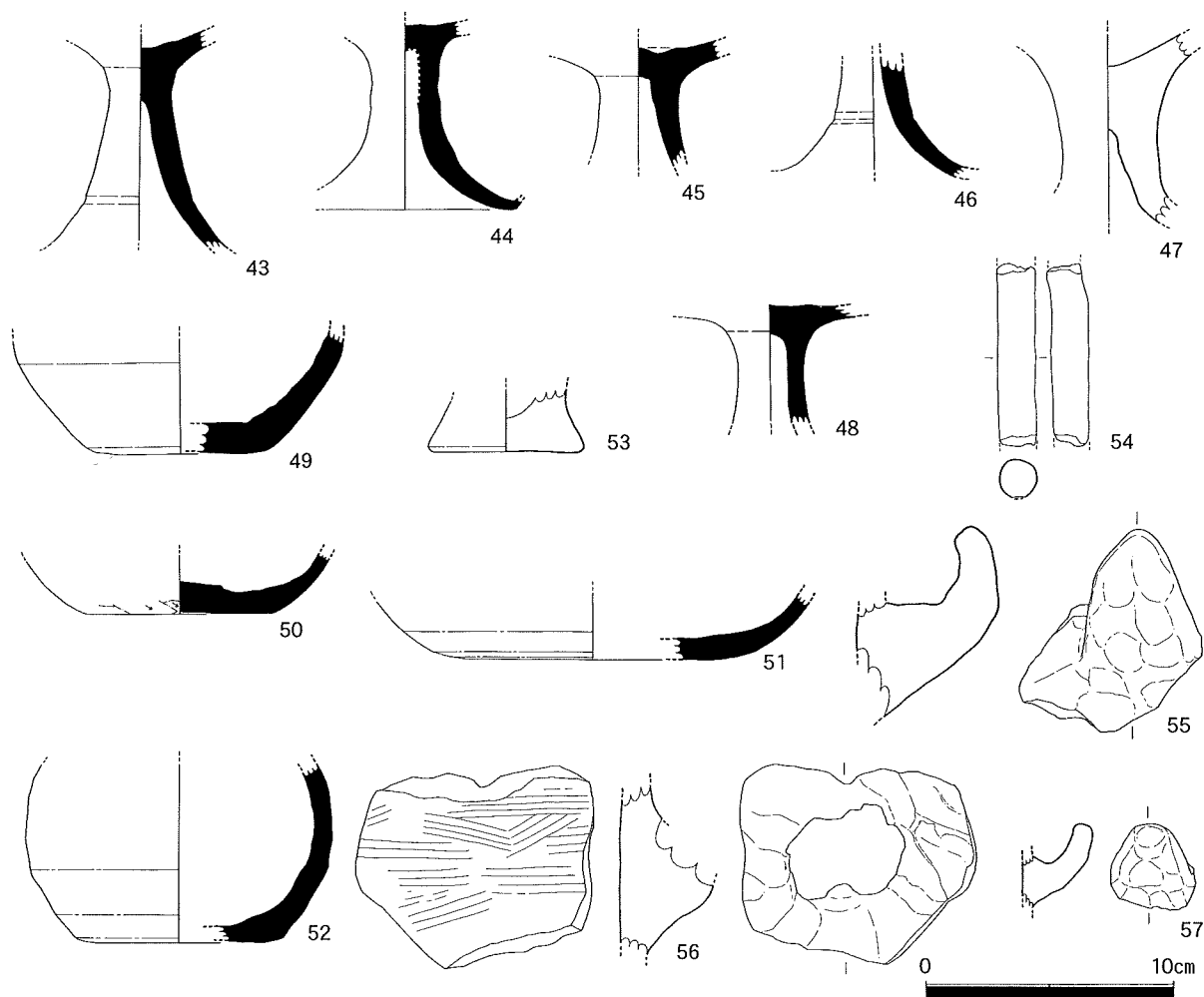
4区は1区と同様の谷状の地形になる。強湿地で重機によりトレンチを掘削するとすぐに湧水し調査は難行した。73トレンチから92トレンチまで遺物が僅かに検出されたが遺構は検出されなかった。4区は工事で切土が少なく遺構が検出されなかったことから本調査の対象外とした。



第4図 試掘トレンチ出土遺物 (S=1/3)



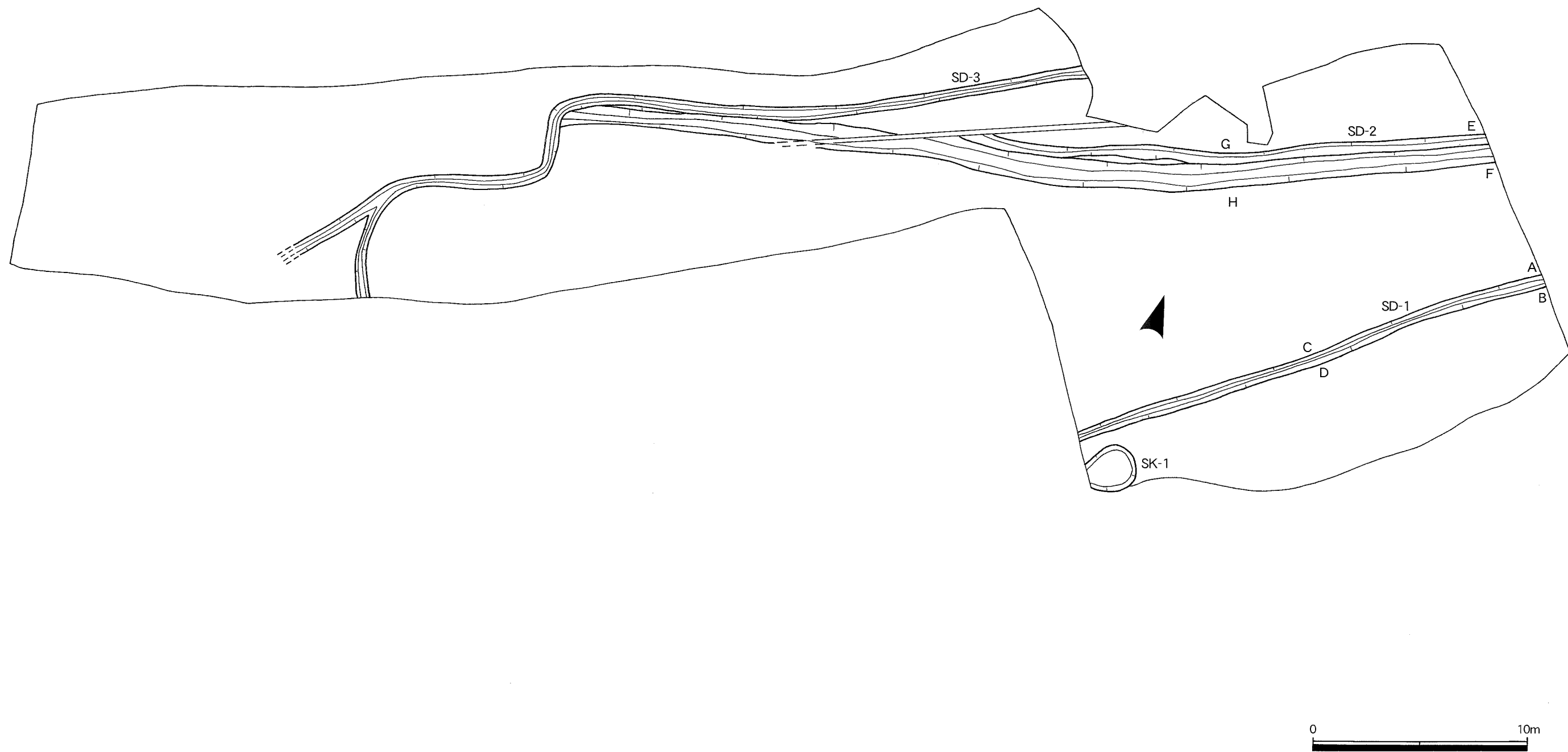
第5図 試掘トレンチ出土遺物 (S=1/3)



第6図 試掘トレンチ出土遺物 (S=1/3)

(3) 試掘トレンチ出土遺物

1は土師器の甕になる。復元口径14.2cmを測る。2から8は須恵器の口縁部になる。2は復元口径17cmを測る。口縁部は上外方へのび端部は垂下する。3は復元口径25cm、端部は方形で突帯は断面逆三角形を呈す。4は復元口径16.2cmを測る。5は復元口径21cm、口縁部は外反し端部は下方に張り出す。6は復元口径16.6cm、口縁端部は方形を呈す。頸部外面にヘラ記号か。7は復元口径25cm、口縁部は大きく外反し端部は肥厚する。8は復元口径19.1cmを測る。9は須恵器の口縁部、10は須恵器の甕の口縁部である。11から17は土師器の口縁部になる。11は頸部で短く屈曲し端部は丸い。12、13、14の口縁端部はやや肥厚する。19から21は瓦質土器の口縁部である。22は須恵器の甕になる。23は須恵器の壺になる。復元口径21.2cmを測る。外面に格子目のタタキを施す。24から31は須恵器の坏身になる。24、25の口縁部は短く屈曲する。32から35は須恵器の坏蓋になる。32は復元口径11cmを測る。口縁部は短く直である。33は復元口径7.9cm、34は復元口径6.8cm、35は復元口径10cmを測る。36から48は高坏になる。39は復元底径10.4cm、40は復元底径9.6cmを測る。42は底径8.2cm、内面にシボリ痕。44は復元底径7.4cmを測る。49から52は須恵器の底部になる。53は弥生土器の底部。復元底径2.5cmを測る。55から57は土師器の甕取手である。



第7図 第1地点 調査区全体図 (S=1/200)

第3章 本調査

(1) 本調査を要する範囲

試掘調査の結果、3地点で本調査の対象とした。調査区1区の谷状部を第1地点、調査区2区の台地上の南側を第2地点、調査区の3区の台地上西側を第3地点とした。(第8図参照)

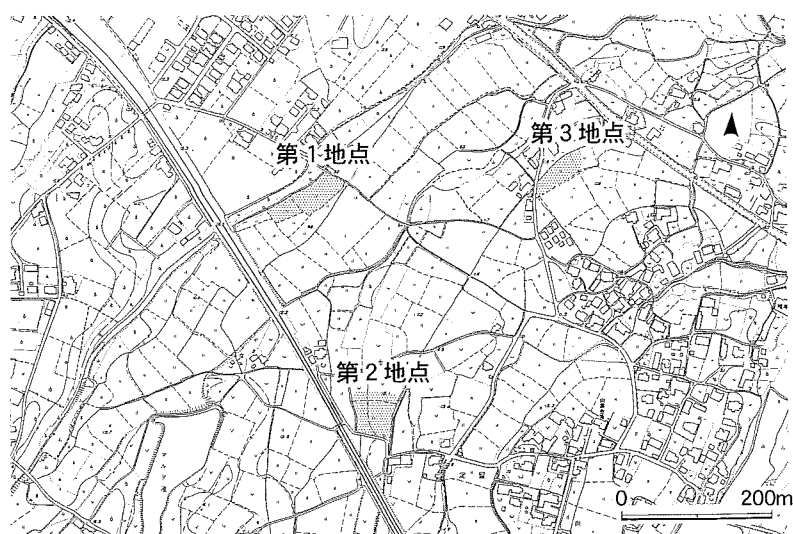
(2) 第1地点

第1地点は1区の中央北側に位置する。検出された遺構は溝状遺構3条、土坑1基である。これより以下、溝状遺構はSD、土坑はSKと表記する。

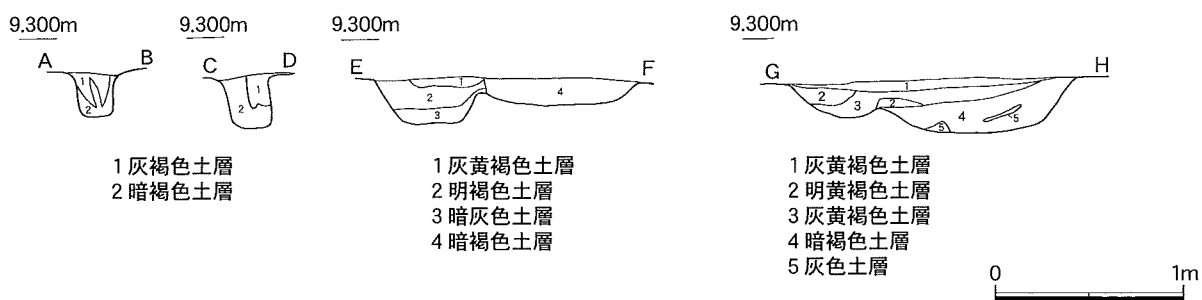
遺構

SD-1

SD-1は調査区の南側で検出された。幅約40cm、深さ約30cm、東西方向にのびる。検出された部分は直線でSD-3とほぼ平行になる。出土遺物は1点もない。



第8図 本調査地点位置図



第9図 第1地点 SD-1、2土層図 (S=1/40)

SD-2

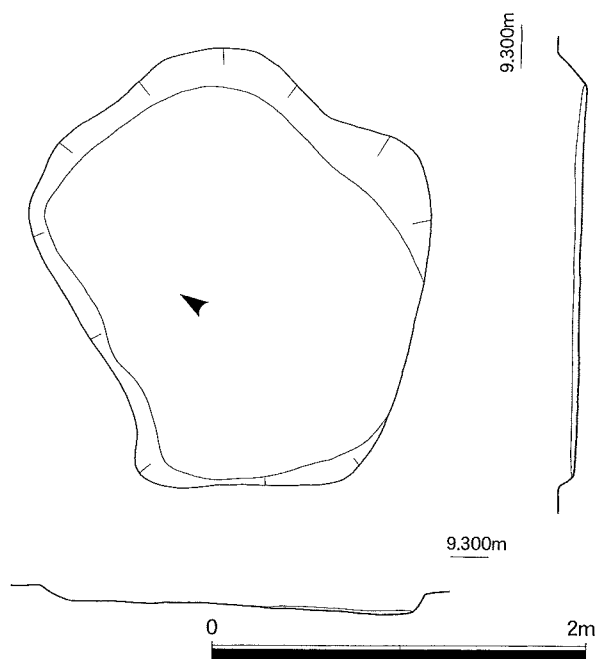
SD-2は調査区の中央部で検出された。幅約1.56m、深さ約28cm、東西方向にのびる。出土遺物は数点で小片のため図示できない。土師質の遺物である。

SD-3

SD-3は調査区の北側で検出された。幅約40cm、深さ約30cm、東西方向にのびる。SD-1と平行にのびSD-2を切る。出土遺物は1点もない。

SK-1

SK-1は調査区の南東で検出された。楕円形で最大径約2.32m、深さ約20cmである。浅い皿状に掘り込まれる。出土遺物は1点もなく時期、性格とも不明である。



第10図 第1地点 SK-1図 (S=1/40)

(3) 第2地点

第2地点は2区の南側に位置する。検出された遺構は竪穴住居1基、土坑1基、掘立柱建物2棟、ピット状遺構である。平成9年度調査区向地区で竪穴住居が検出された地点に隣接する。これより以下、竪穴住居はSH、土坑はSK、掘立柱建物はSBと表記する。

遺構

SH-1

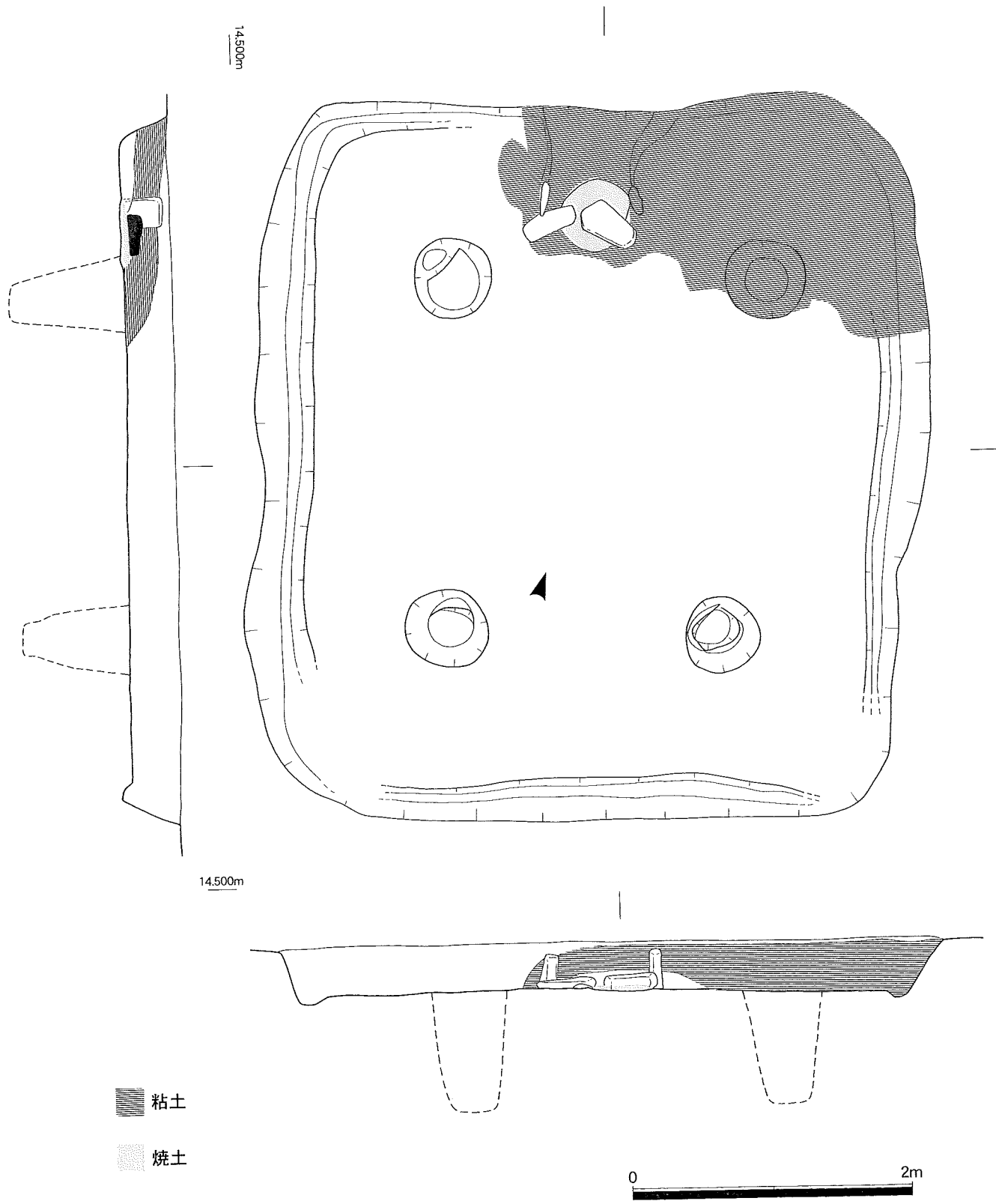
SH-1は調査区の中央部で検出された。隅丸方形で南北約4.72m、東西約5m、深さ約40cmである。住居内の壁面直下に幅約16cm、深さ約10cmの溝が掘り込まれる。支柱穴は4基で床面からの深さは約84cmである。柱穴の土層観察で柱痕が確認された。西壁面に竈が検出された。竈は炭と焼土が堆積しており粘土状の塊が検出された。竈の床面は被熱し円形に赤褐色の焼土痕が残る。竈の周辺で棒状の石が出土しており支脚になるものと推測される。また住居南西側に乳白色の粘土が大量に検出された。住居はなんらかの工房であろうか。

SH-1出土遺物

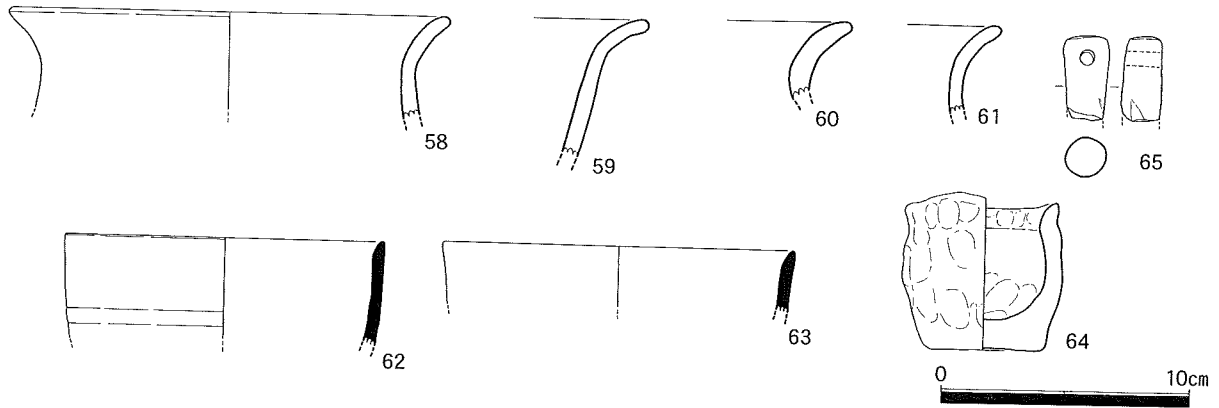
58から61は土師器の口縁部である。58は竈付近で検出された。復元口径17.3cmを測る。調整は器面が荒れ不明である。62、63は須恵器の坏身である。62は復元口径12.6cm、内外面とも回転ナデを施す。63は復元口径13.8cmを測る。内外面とも回転ナデを施す。64は土師器のミニチュア土器の甕である。口径6.1cm、器高6.2cm、底径4.2cmを測る。内外面とも指オサエを施す。65は土師器の土錘である。棒状で両端に孔がつけられたものであろう。



第11図 第2地点 調査区全体図 (S=1/200)



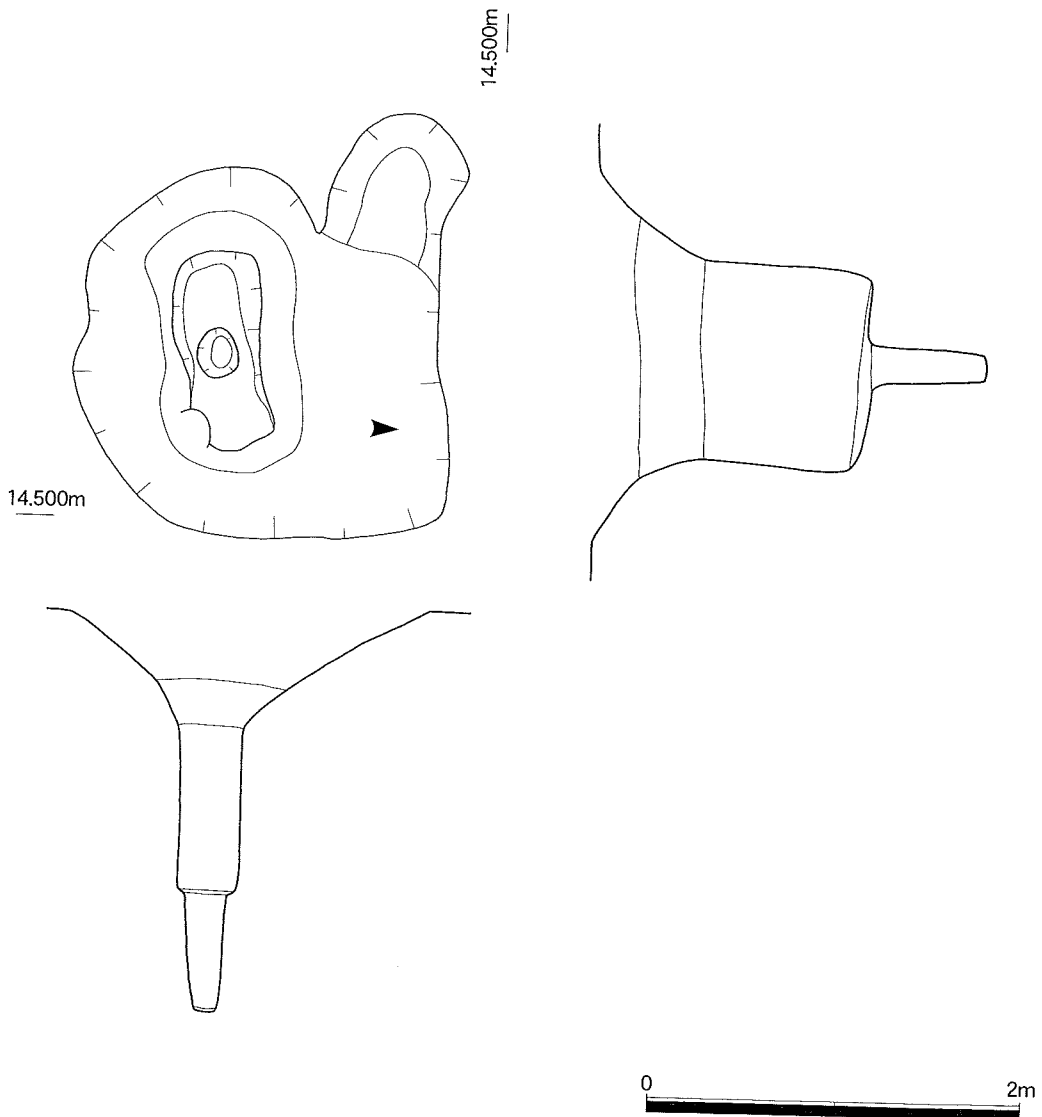
第12図 第2地点 SH-1図 (S=1/40)



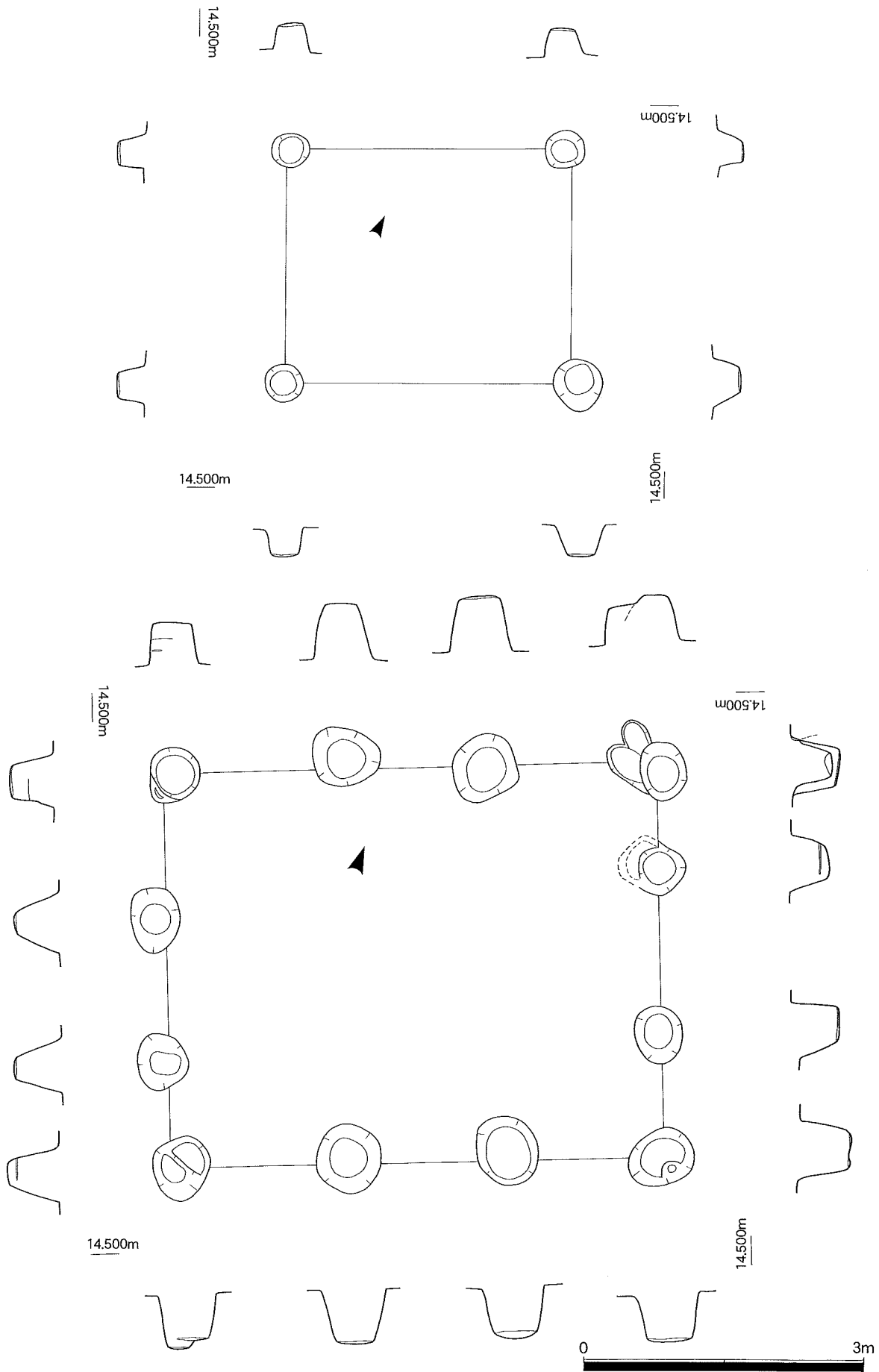
第13図 第2地点 SH-1出土遺物 (S=1/3)

SK-1

SK-1は第2地点の中央で検出された。幅は東西方向に1.92m、南北方向に1.92m、深さ2.12mを測る。掘込みは緩やかに落ち垂直に掘られる。底に円形のピットが検出され深さは約60cmである。出土遺物は1点もなく時期は不明である。陥穴になるものだろうか。



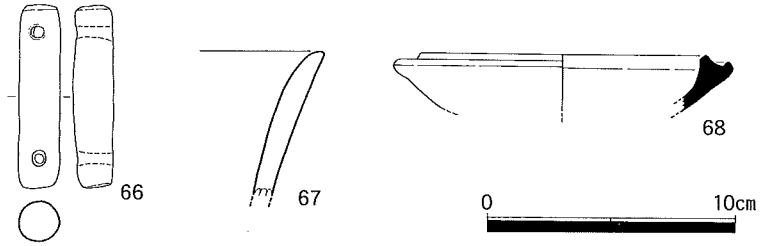
第14図 第2地点 SK-1図 (S=1/40)



第15图 第2地点 SB-1、2图 (S=1/60)

SB-1

SB-1はSH-1の北側約1.6mで検出された。1間×1間で南北方向に2.5m、東西方向に3mを測る。柱穴の深さはいずれも約30cmを測る。出土遺物は1点もなく時期は不明であるが、埋土からSH-1と同時期と推測される。



第16図 第2地点 調査区出土遺物 (S=1/3)

SB-2

SB-2はSH-1の南側約3mで検出された。3間×3間の長方形で南北方向に4.2m、東西方向に5.1mを測る。柱穴の深さはいずれも約50cmを測る。出土遺物は小片で図示できず時期も不明である。

PIT

PITは調査区の南側、中央、北側に点在する。直線に並ぶものではなく出土遺物は小片で数も少ない。

第2地点出土遺物

66は土師器の土錘である。棒状で両端に孔をあけたものである。最大長7.25cm、最大幅1.65cmを測る。67は土師器の口縁部である。端部は緩やかに外反する。68は須恵器の坏身である。復元口径11.3cmを測る。色調は灰白色で内外面とも回転ナデを施す。

(4) 第3地点

第3地点は3区の北西に位置する。検出された遺構は土坑7基、掘立柱建物7棟、ピット状遺構数十基である。これより以下、土坑はSK、掘立柱建物はSB、不明遺構はSXで表記する。

遺構

SK-1

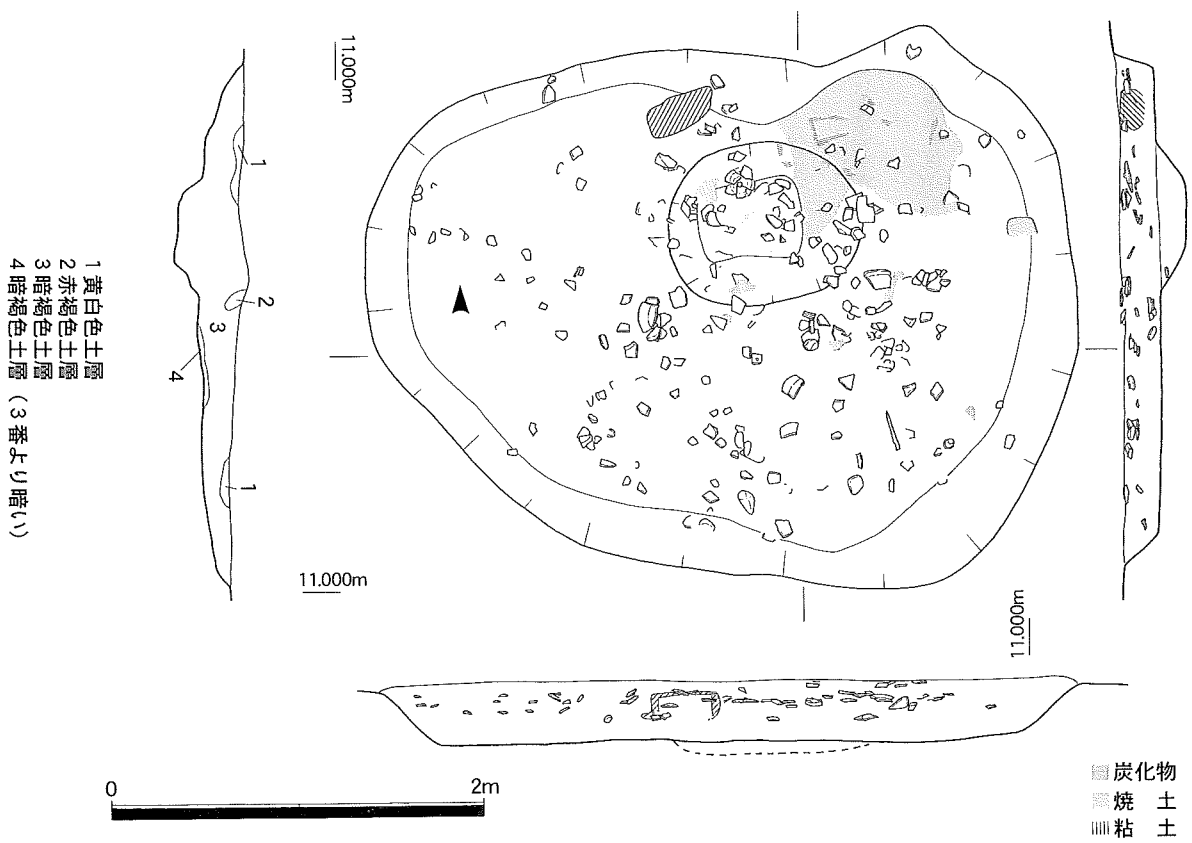
SK-1は第3地点の東端で検出された。楕円形で最大幅3.8m、深さ36cmを測る。床面やや中央北よりに円形に浅いピット状の掘り込みが検出された。出土遺物は多く、炭化物、粘土状の土なども検出された。

SK-1出土遺物

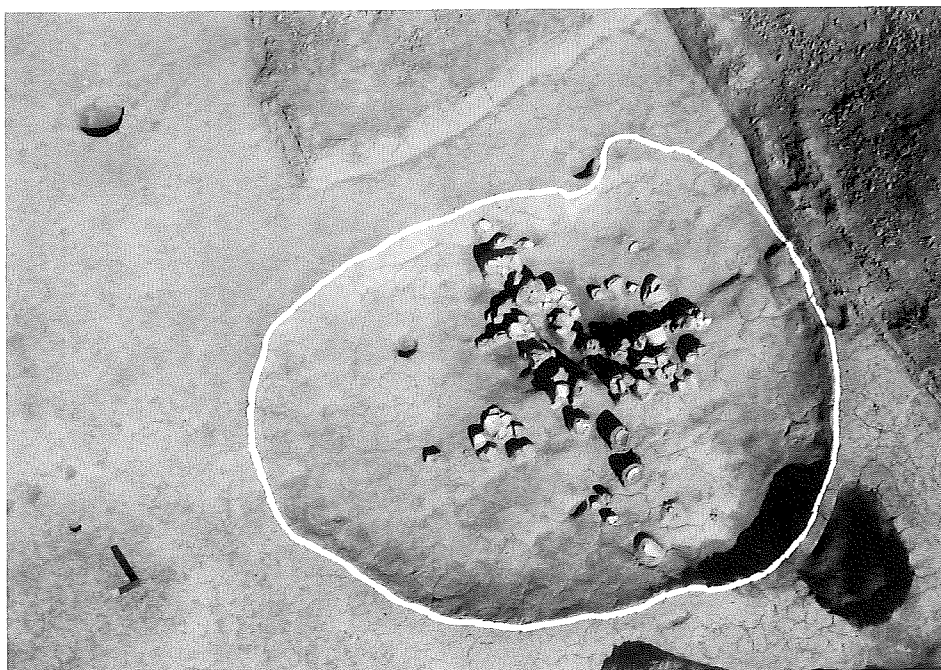
69から73は土師器の甕である。69は復元口径42.4cmを測る。外面にススが付着する。70は復元口径24.7cm、71は復元口径18.7cmを測る。72、73は土師器の甕の口縁部になると思われる。74から79も土師器の甕の口縁部になると思われる。75は復元口径20.6cm、76は復元口径12.6cmを測る。80から82は土師器の口縁部である。83から89は須恵器の坏身口縁部である。83、85、86の口縁端部はやや外反する。84、87の口縁端部は上方へ伸びる。88、89の口縁部は上外方へ伸びる。90、91は土師器の坏身口縁部と思われる。90、91の口縁端部は外反する。92、93は土師器の椀である。92の口縁部は上外方へ伸びる。復元口径18.4cm。93の口縁端部は短く外反する。復元口径15.6cm。94か



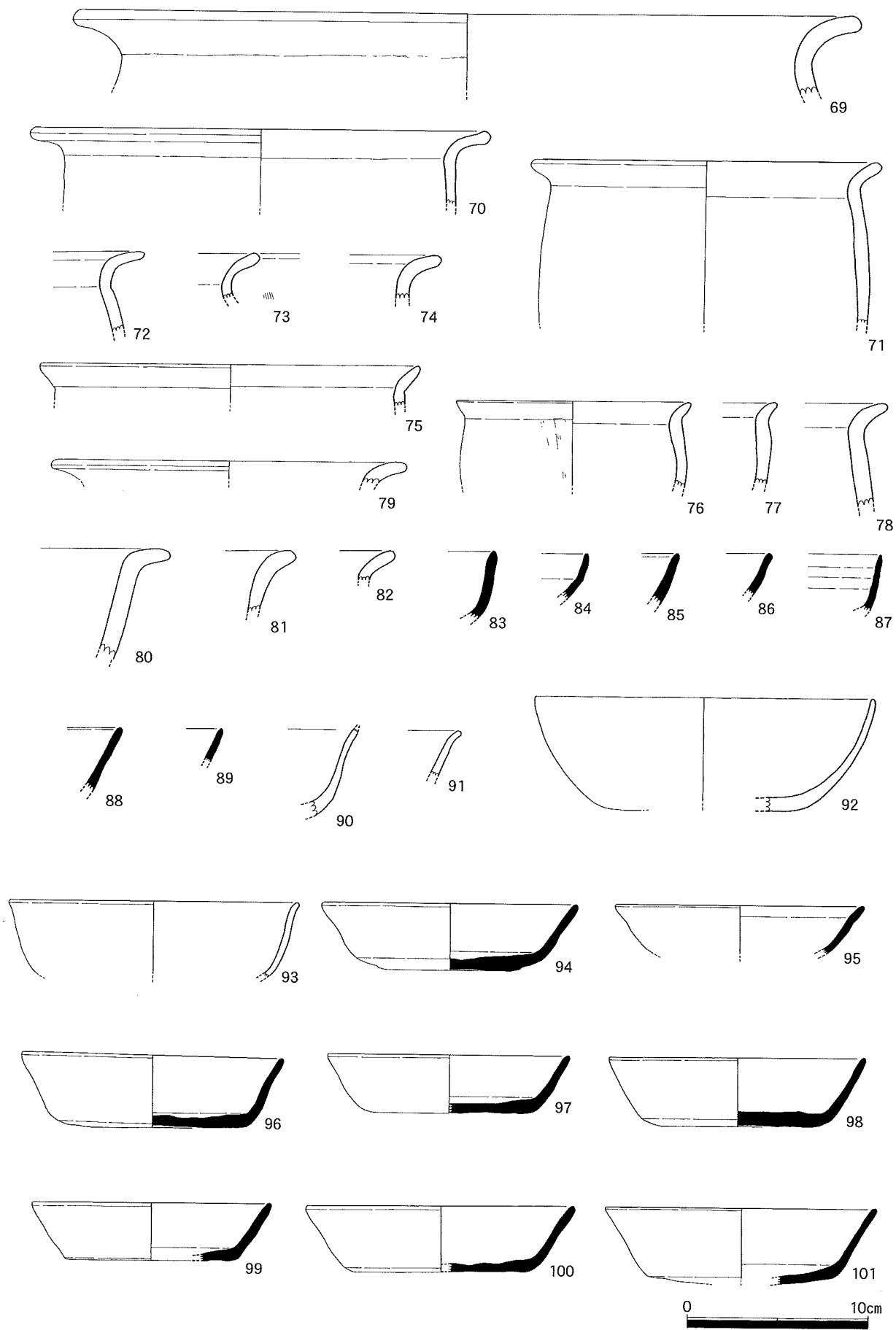
第17図 第3地点 調査区全体図 (S=1/200)



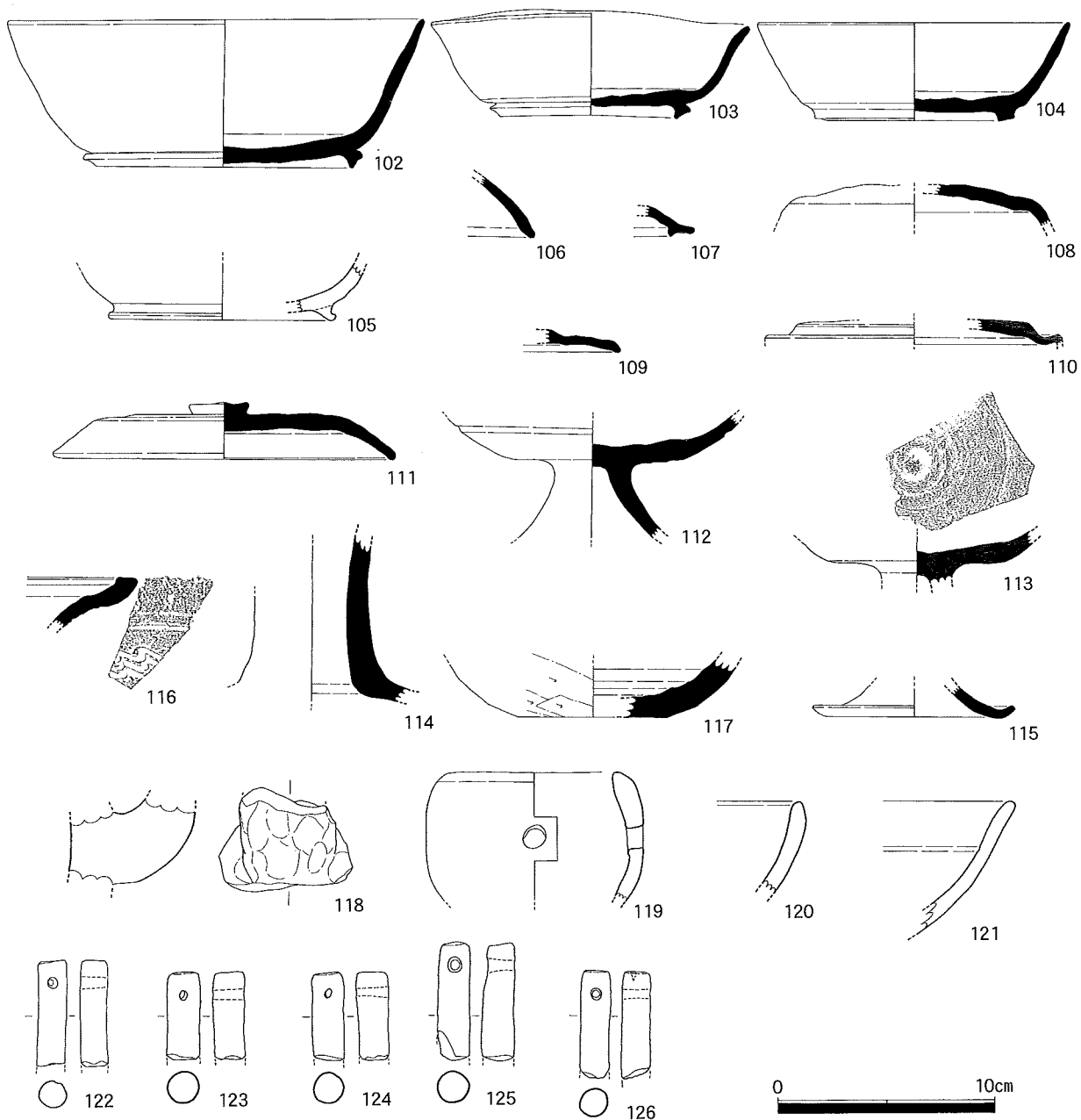
第18図 第3地点 SK-1図 (S=1/40)



第3地点 SK-1



第19図 第3地点 SK-1出土遺物 (S=1/3)



第20図 第3地点 SK-1出土遺物 (S=1/3)

ら104は須恵器の坏身になる。94は復元口径13.8cm、器高3.6cm、復元底径10.2cmを測る。口縁端部はやや外反する。95は復元口径13.4cm。口縁端部は外反する。96は口径14cm、器高3.9cm、底径8cmを測る。97は復元口径13cm、器高3.15cm、復元底径9.2cm。98は復元口径13.9cm、器高3.7cm、復元底径10.4cm。焼成がやや不良である。99は復元口径12.9cm、器高3.1cm、復元底径9cm。100は復元口径14.6cm、器高3.6cm、復元底径9.4cm。101は復元口径14.7cm、復元底径10cm。102から105は高台付坏である。102は口径18.8cm、器高6.65cm、底径11.6cmを測る。高台は短く斜めに張り出し、内側のみ着地する。103は最大口径14.4cm、最大器高4.8cmを測る。器形がひずむ。104は復元口径14.1cm、器高4.4cm、復元底径9cmを測る。高台は方形である。105は土師器である。復元底径10.2cmを測る。106から111は須恵器の坏蓋になる。106の口縁端部はやや外反する。107は返りのある蓋。

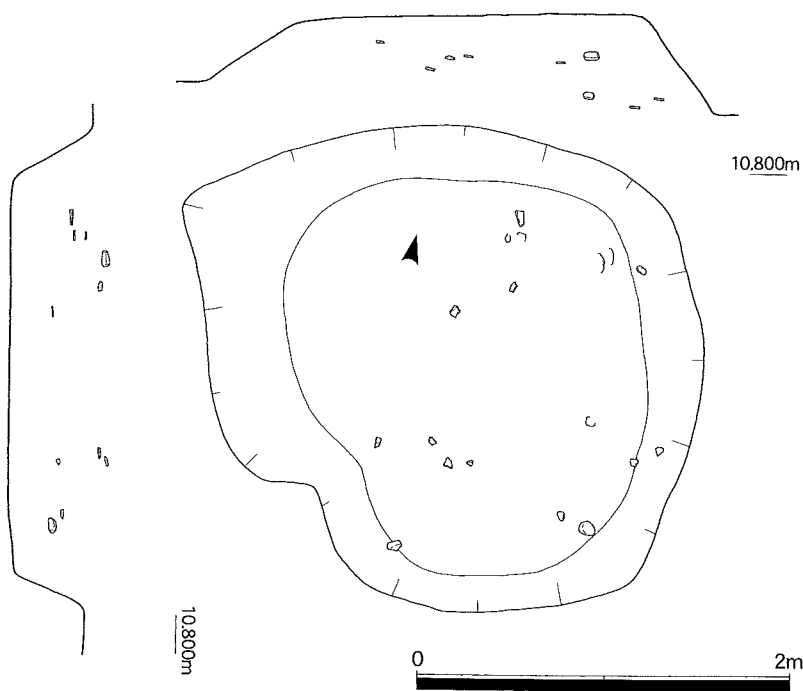
口縁端部は短く内側に張り出す。109の口縁部は屈曲し、端部は丸い。110の口縁部は嘴状に屈曲する。111は口径15.4cm、器高2.55cmを測る。外面は回転ヘラ削りを施す。口縁端部は丸い。112から115は須恵器の高坏である。112は坏の外面に沈線。113は内面に「×」のヘラ記号か。116は須恵器の口縁部である。外面に沈線と櫛描波状文を施す。117は須恵器の底部である。復元底径6.8cmを測る。118は土師器の甑取手。119は土師器の蛸壺であろう。復元口径7.8cmを測る。122から126は土師器の土錘である。棒状で両端に孔がつけられたものであろう。126は上部に穿孔か。

SK-2

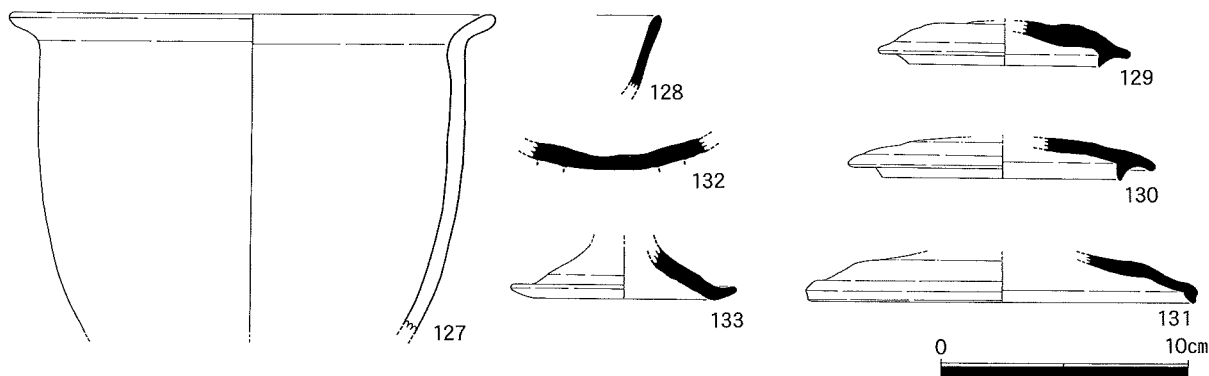
SK-2は調査区の北東で検出された。南北方向に2.58m、東西方向に2.62m、深さ48cmを測る。床面はフラットである。

SK-2出土遺物

127は土師器の甕である。復元口径19cmを測る。内外面とも器面荒れのため調整は不明。128は須恵器の坏身か。口縁端部は丸く、やや外反する。129から131は須恵器の坏蓋である。129は復元口径7.6cm。130は復元口径9.4cm。129、130の返りは外反する。131は復元口径15.2cm。外面に回転ヘラ削りを施す。132は須恵器の底部であろう。底部に接合痕か。133は須恵器の高坏の脚部である。復元底径9cmを測る。内外面とも回転ナデを施す。



第21図 第3地点 SK-2図 (S=1/40)



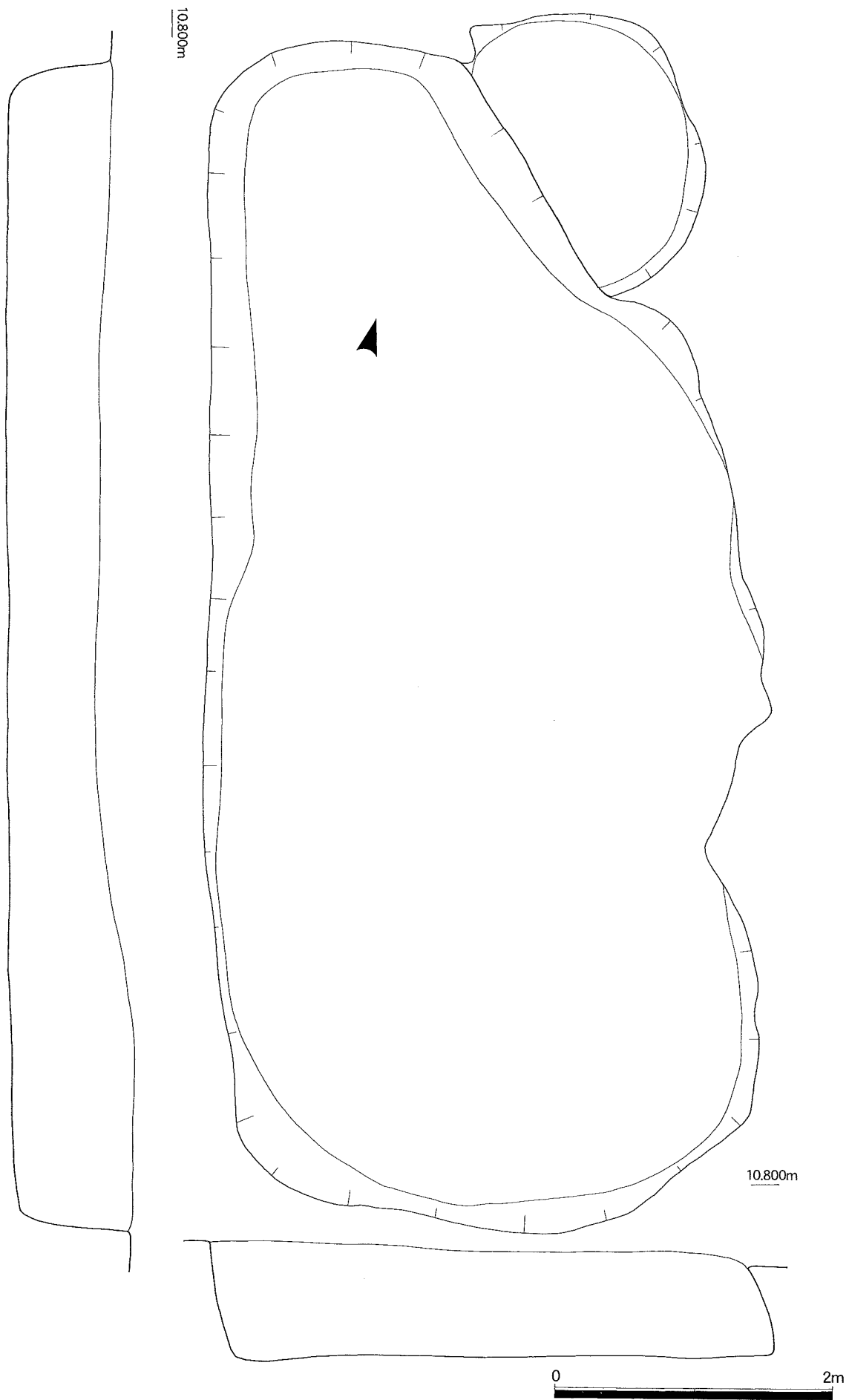
第22図 第3地点 SK-2出土遺物 (S=1/3)

SK-3

SK-3は調査区北側で検出された。大型で床面はフラットである。南北方向に8.32m、東西方向に4m、深さ84cmを測る。南側の壁面に工具で掘った痕跡が残る。SK-6を切る。

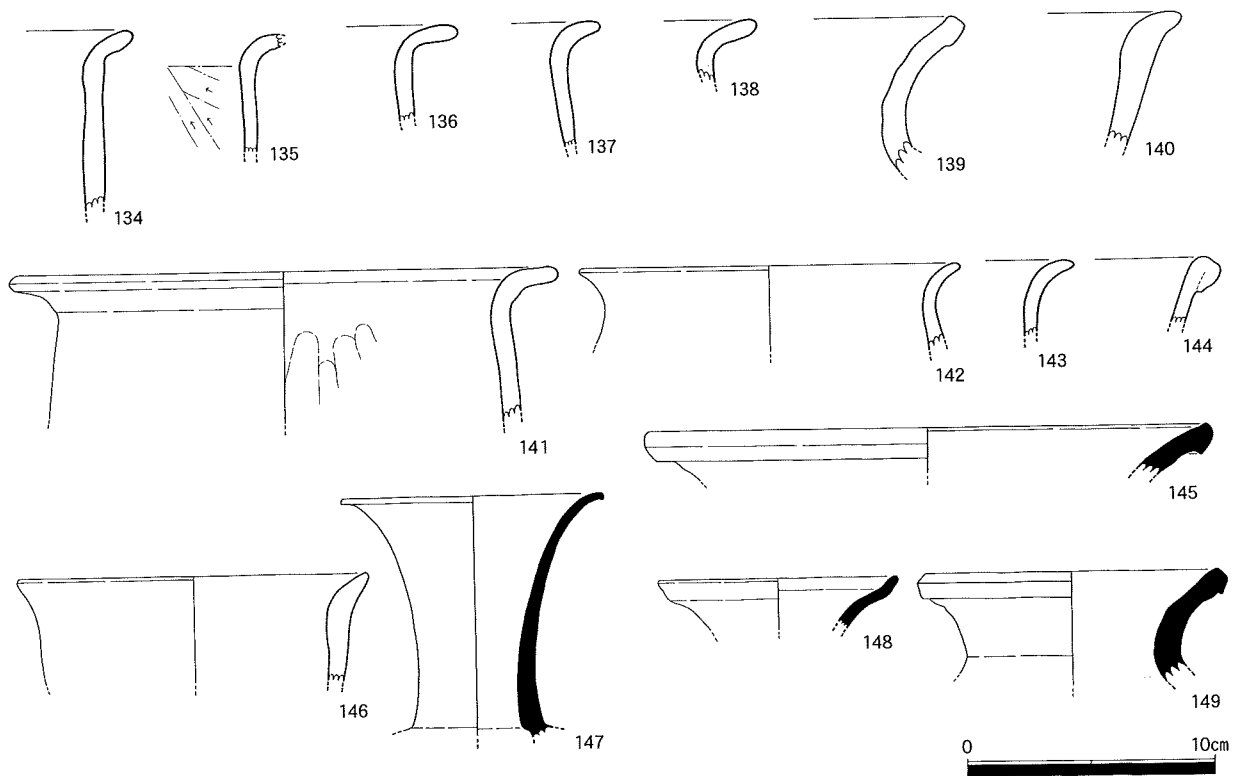
SK-3出土遺物

134から139は土師器の甕の口縁部である。135は内面にヘラ削りを施す。136の口縁部はほぼ直角に屈曲する。端部は丸い。137の口縁部は短く屈曲する。140も土師器の甕か。141は土師器の甕である。復元口径21.2cmを測る。142も土師器の甕であろう。復元口径14.7cmを測る。145は須恵器の甕の口縁部である。復元口径22.2cmを測る。口縁端部は肥厚し丸い。146は土師器の甕の口縁部か。復元口径13.8cmを測る。内外面とも回転ナデを施す。147は長頸壺の口縁部か。口縁部は外反し端部は丸い。復元口径10.4cm。内外面とも回転ナデを施す。外面に自然釉が付着する。148は須恵器の口縁部である。復元口径9.5cmを測る。外面に自然釉が付着する。149は須恵器の壺である。復元口径11.7cmを測る。口縁端部は方形を呈す。150から153は須恵器の坏身の口縁部であろう。152の口縁端部は外反する。154は土師器の坏身である。復元口径13.7cmを測る。口縁部は上外方へ伸びる。155から166は須恵器の坏身である。155は復元口径13.6cm。156は復元口径14.9cm。口縁部はやや外反する。157は復元口径12.2cm。口縁端部は外反する。外面に自然釉が付着する。158は復元口径12cm。口縁端部は外反する。159は復元口径13.9cm、器高3.3cm、復元底径10.6cmを測る。160は復元口径13.1cm、復元底径9.4cm。口縁端部は丸い。161は復元口径13.8cm、器高3.55cm、復元底径10.4cmを測る。焼成が不良である。162は復元口径13.4cm、器高3.6cm、復元底径10.6cmを測る。口縁端部は尖りぎみ。163は復元口径14.4cm、復元底径10cm。164は復元口径14.1cm、器高3.1cm、復元底径9.8cmを測る。165は復元口径14.8cm、器高3.8cm、復元底径9.4cm。外面底部にヘラ記号か。166は復元口径13.9cm、器高3.95cm、復元底径10.2cmを測る。焼成が不良である。167から177は高台付坏の底部である。168の高台は方形で底部外縁より内側につく。170は復元底径9.2cmを測る。高台は外に開き、接地面は平たい。外面に自然釉が付着か。171は復元底径9.6cm、172は復元底径9.1cmを測る。173は復元底径11.1cmを測る。高台は内側のみ接地する。174は復元底径9.5cm。高台断面は方形である。175は復元底径8.6cm。高台は外に開き端部はやや内側に屈曲し丸い。176は復元底径8.3cm。高台は内側のみ接地する。177は復元底径13.5cm。高台は外に開き、断面方形である。焼成不良。

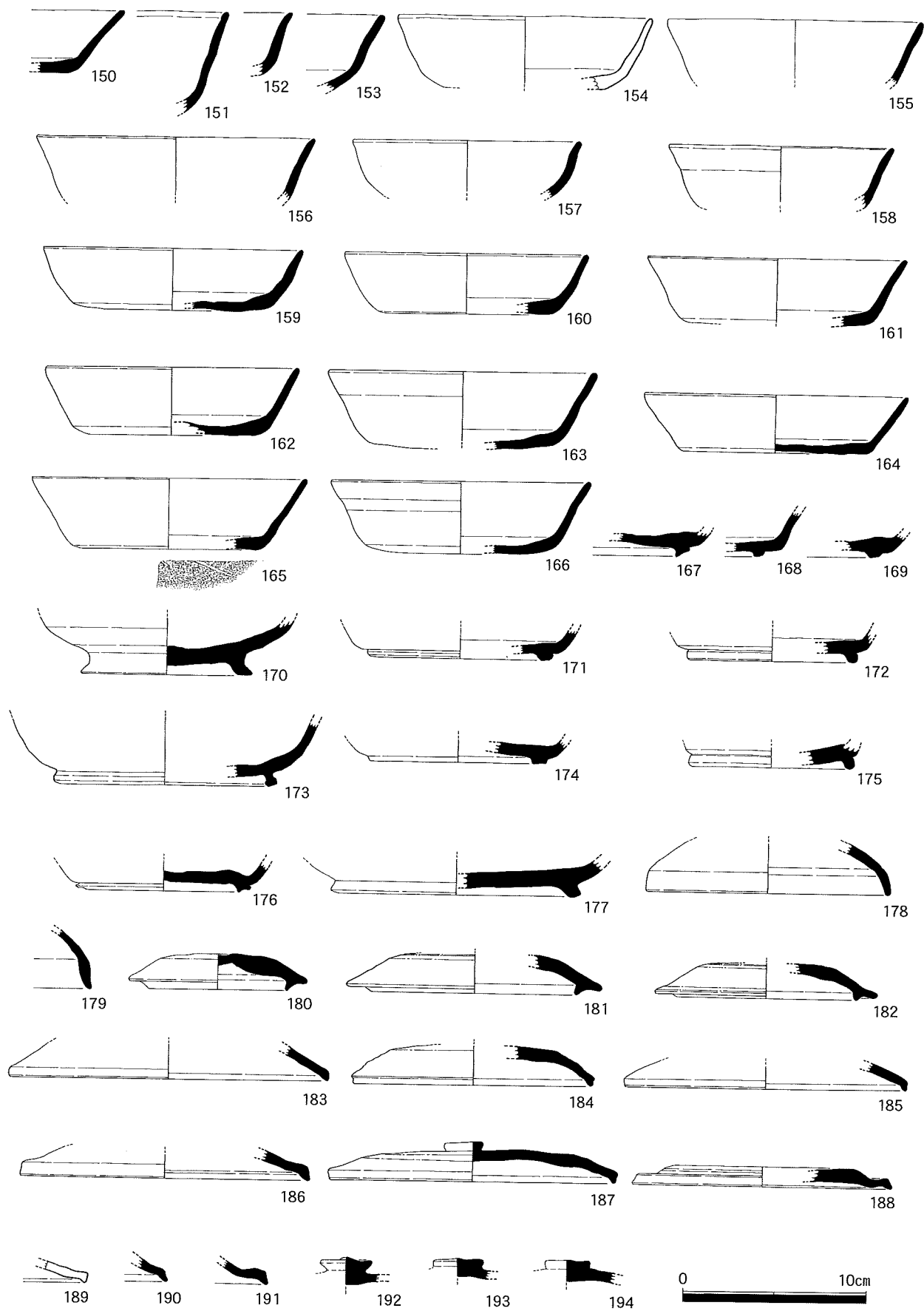


第23図 第3地点 SK-3図 (S=1/40)

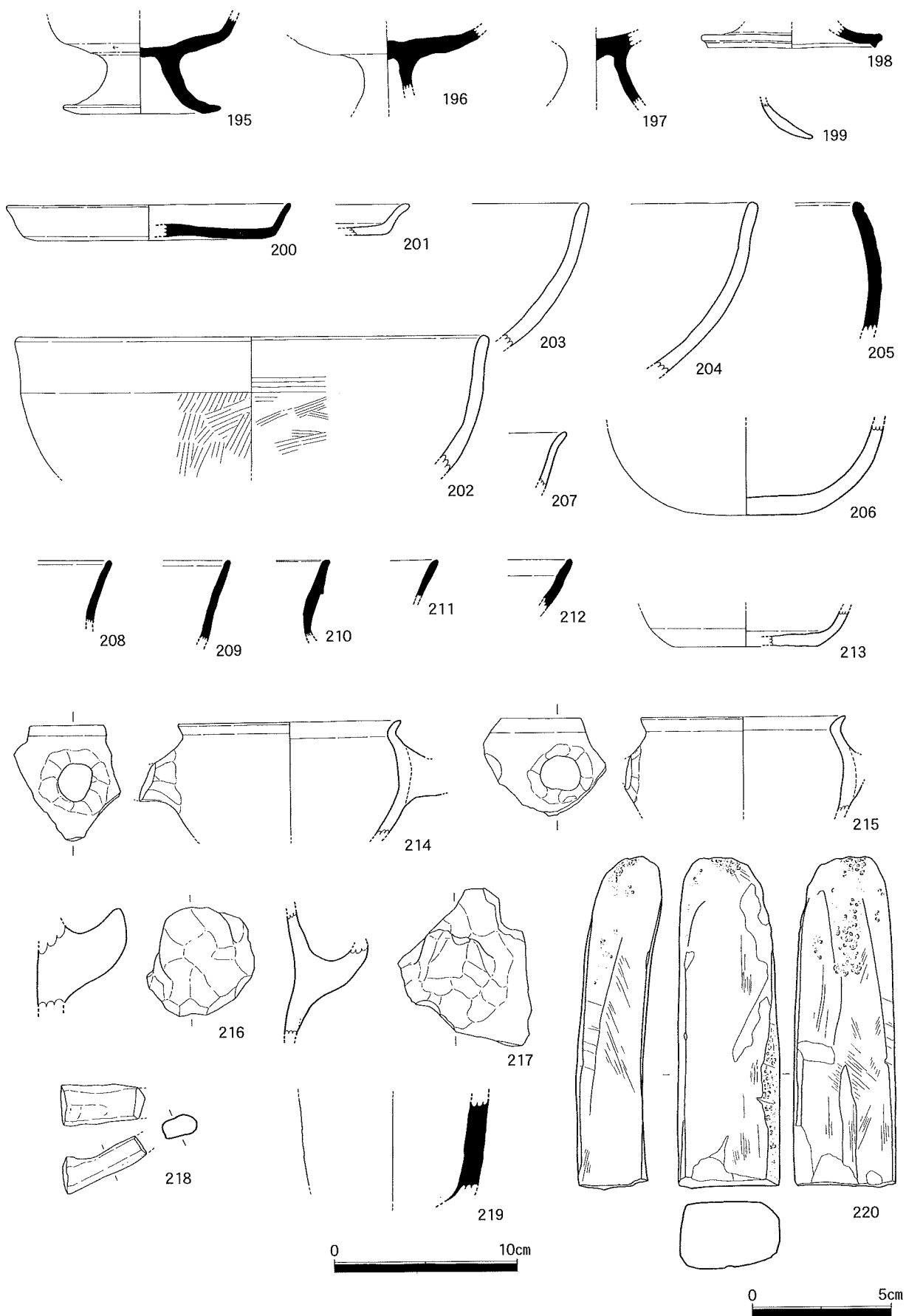
178から194は須恵器の坏蓋である。178は復元口径13cmを測る。口縁端部は丸い。180は復元口径7.4cm。外面天井部に回転ヘラ削りを施す。受部に自然釉が付着する。181は復元口径11cm。外面天井部に回転ヘラ削りを施す。182は復元口径9.6cm。183は復元口径17cm。天井部は高い。184は復元口径12.8cm。外面店上部に回転ヘラ削りを施す。185は復元口径15cm。186は復元口径15.4cm。187は復元口径15.35cm。口縁端部は丸い。天井部に回転ヘラ削りを施す。188は復元口径13.8cm。口縁部は嘴状に屈曲する。192から194はつまみである。195から198は須恵器の高坏である。195は底径8.5cmを測る。底部は内側のみ接地する。198は復元底径9cm。脚裾部は大きく開く。200は須恵器の皿である。復元口径15.2cm、器高1.9cm、復元底径13.6cmを測る。外面底部に回転ヘラ削りを施す。口縁端部は上外方へ伸び、丸い。201は土師器の皿である。口縁端部は外側へわずかに外反する。202から204は土師器の椀か。202は復元口径25cm。内外面にハケ目を施す。口縁端部は丸い。205は須恵器の口縁部である。外面に回転ヘラ削りを施す。206は土師器の底部である。207は土師器の口縁部である。口縁端部はわずかに外反する。208から212は須恵器の口縁部である。213は土師器の底部か。復元底径7.9cmを測る。内外面とも調整は不明。214、215は鉢である。214は復元口径12cm。215は復元口径11cm。胴部に取手がつく。216、217は取手である。217の内面はふくらみを持つ。214、215と同様のタイプであろう。219は須恵器の胴部である。内外面とも回転ナデを施す。220は砥石である。長さ11.9cm、幅3.7cm、重さ185.54gである。



第24図 第3地点 SK-3出土遺物 (S=1/3)



第25图 第3地点 SK-3出土遺物 (S=1/3)



第26図 第3地点 SK-3出土遺物 (S=1/3) 石器 (S=1/2)

SK-4

SK-4は調査区の北東側で検出された。東側は調査区外へ続き全景は不明。床面はフラットで壁面はオーバーハングに掘り込まれる。出土遺物は少なく小片である。

SK-5

SK-5は調査区の北東側で検出された。北側、東側は調査区外で全景は不明である。床面はフラットである。床面の西側、壁面直下にPITが掘り込まれる。出土遺物は1点もない。埋土はSK-4と酷似する。

SK-6

SK-6は調査区の北東側で検出された。円形で床面はフラットである。南北方向に2m、深さ72cmを測る。SK-3に切られる。出土遺物は少なく小片である。

SK-6出土遺物

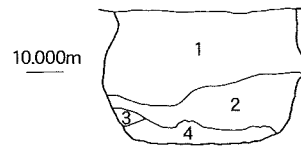
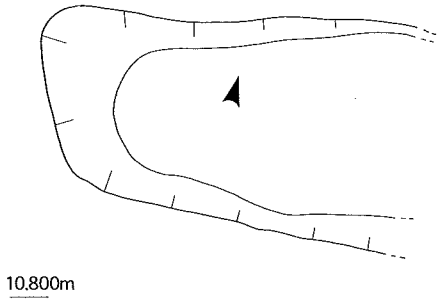
221は須恵器の高台付坏になると思われる。復元底径9.8cmを測る。高台は外へ開き屈曲する。端部は外側で接地する。

SK-7

SK-7は調査区の東側中央部で検出された。楕円形で南北方向に84cm、東西方向に60cm、深さ14cmを測る。床面と北側の壁面が赤褐色で被熱したものであろうか。出土遺物は1点もない。

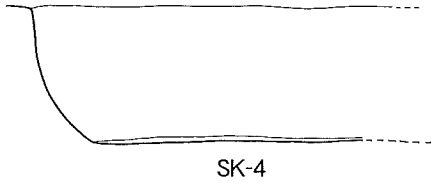


SK-4土層

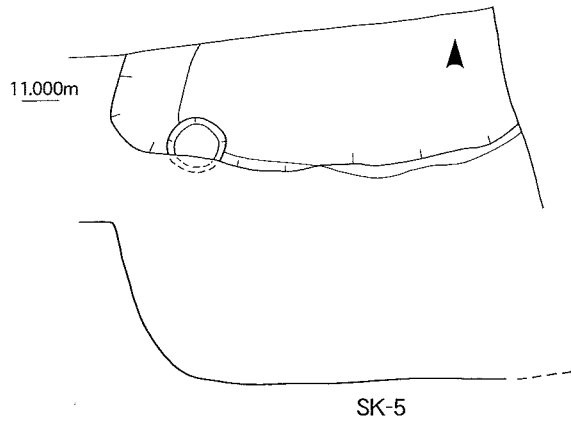


SK-4土層図

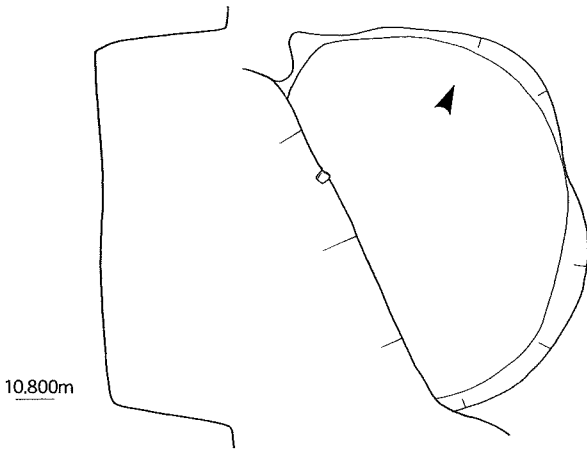
- 1 褐色土層 (黄色ブロックを含む)
- 2 褐色土層 (黄色ブロックを含む)
- 3 黄褐色土層
- 4 暗褐色土層



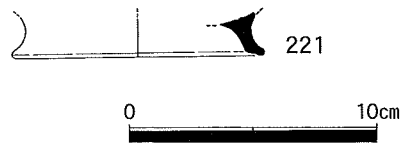
SK-4



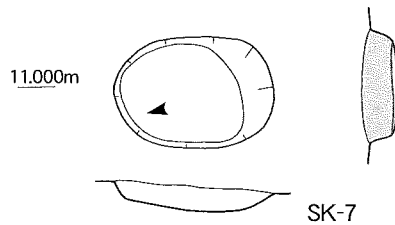
SK-5



SK-6



第28図 第3地点 SK-6出土遺物 (S=1/3)



SK-7

被熱した土



第27図 第3地点 SK-4、5、6、7図 (S=1/40)

SB-1

SB-1は調査区の南側で検出された。2間×3間で東側の一部は調査区外である。柱穴はいずれも45cmほどで、深さ25～40cmである。柱間寸法は南北約2.05m、東西約2.1～2.5mである。全景は明らかでないが面積は約28.2㎡になると推定される。

SB-2

SB-2は調査区の西側で検出された。建物は北側に伸びるものと推測されたが検出できなかった。柱穴は約30～42cm、深さは約13～24cmである。柱間寸法は南北約1.7m、東西約1.2～2.05mである。

SB-3

SB-3は調査区の最西端で検出された。1間×1間で柱穴は約18～35cm、深さは13～33cm。柱間寸法は南北約1.9m、東西約1.95mである。面積は3.8㎡。SB-3の北側は表土から地山までが浅く柱穴が削平を受けたか。

SB-4

SB-4は調査区の北東で検出された。2間×3間で柱穴は約30～35cm、深さは18～45cmである。柱間寸法は南北約1.8～2.3m、東西約1.5mである。建物規模は南6.25m、東西3.12mで面積は19.5㎡である。

SB-5

SB-5はSB-4の北側で検出された。建物西側の柱穴がSK-3に切られるが2間×2間になるものと判断した。柱穴は約25～35cm、深さは18cm～25cmである。柱間寸法は南北約1.9～2.1m、東西約1.85～2.05mである。

SB-6

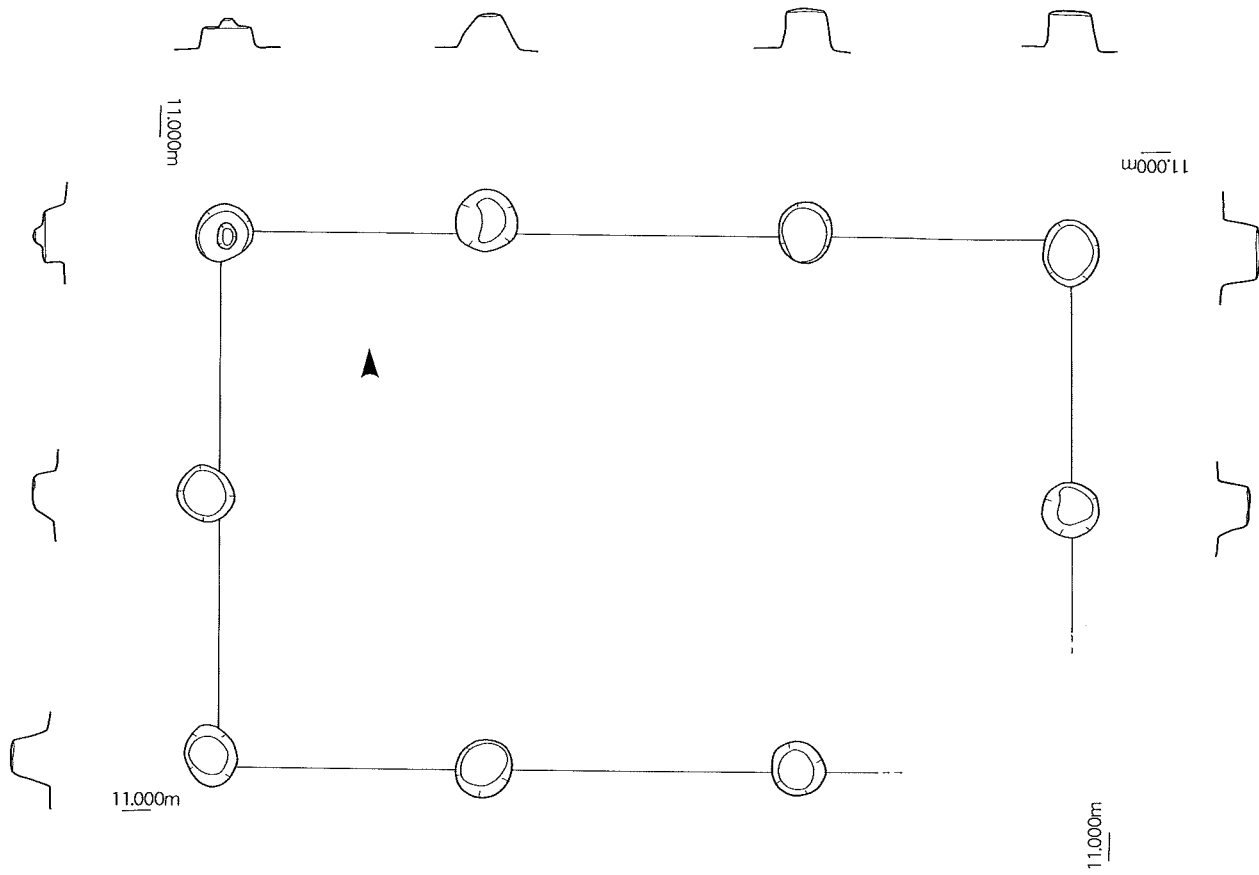
SB-6はSB-4の西側で検出された。2間×2間の総柱建物である。柱穴は約42～60cm、深さは27cm～55cmである。柱間寸法は南北1.5～1.8m、東西約1.7～1.8mである。建物規模は南北3.48m、東西3.66mで面積は12.7㎡である。

SB-7

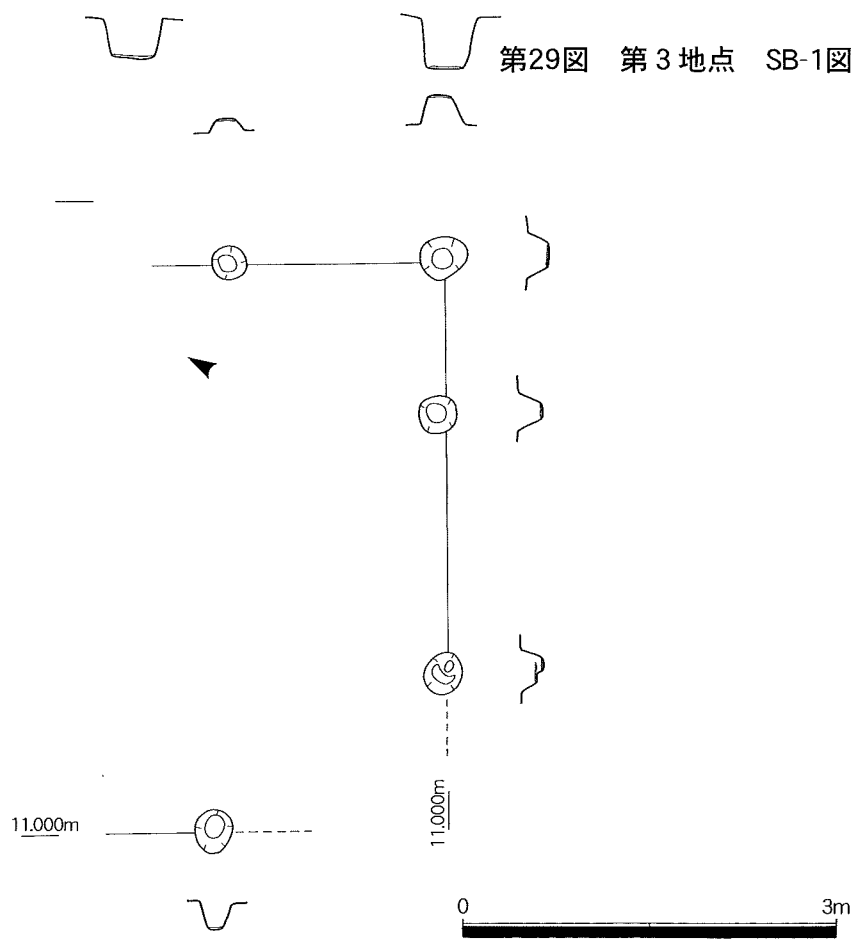
SB-7はSB-4の東側で検出された。1間×1間で柱穴は約36～42cm、深さは36cm～55cmである。建物規模は南北2.05m、東西2.5mで面積は5.1㎡である。

SB-7出土遺物

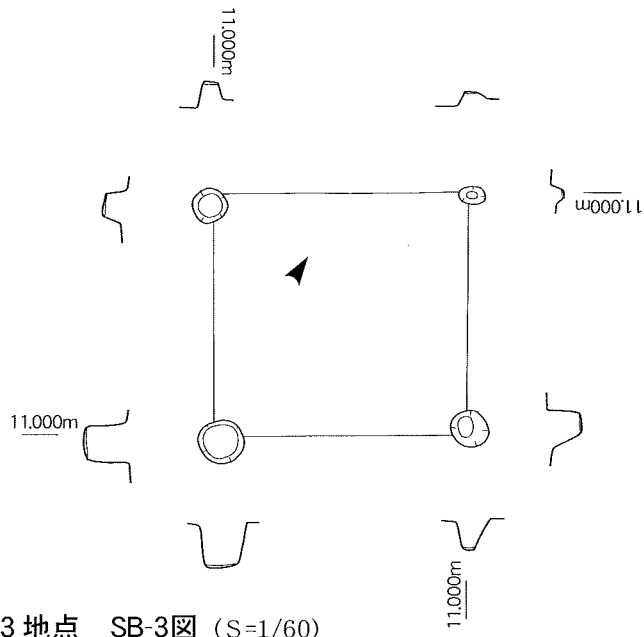
222は土師器の坏身である。復元口径16.4cm、器高4.9cm、復元底径12.5cmを測る。口縁端部は短く屈曲し丸い。



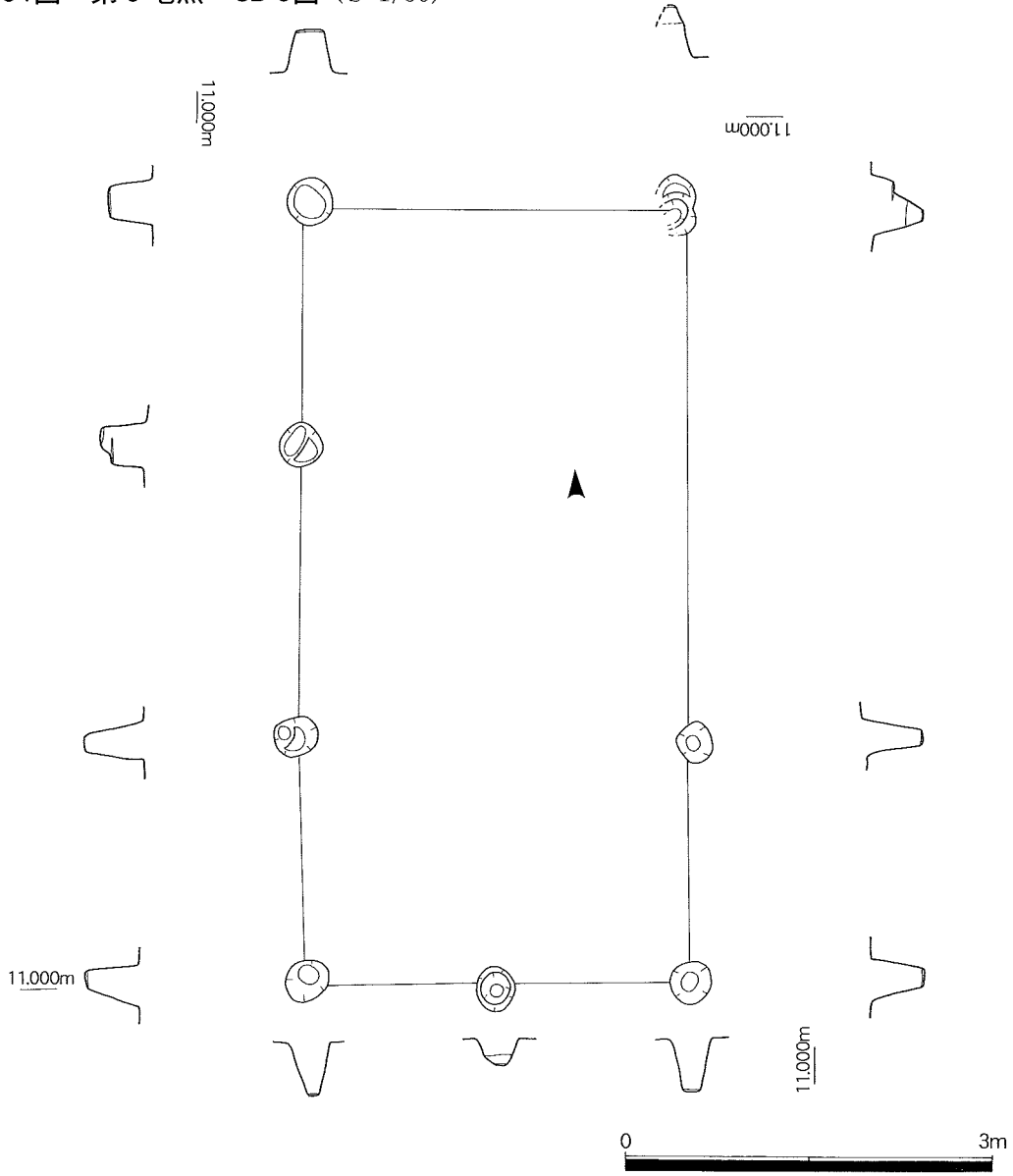
第29图 第3地点 SB-1图 (S=1/60)



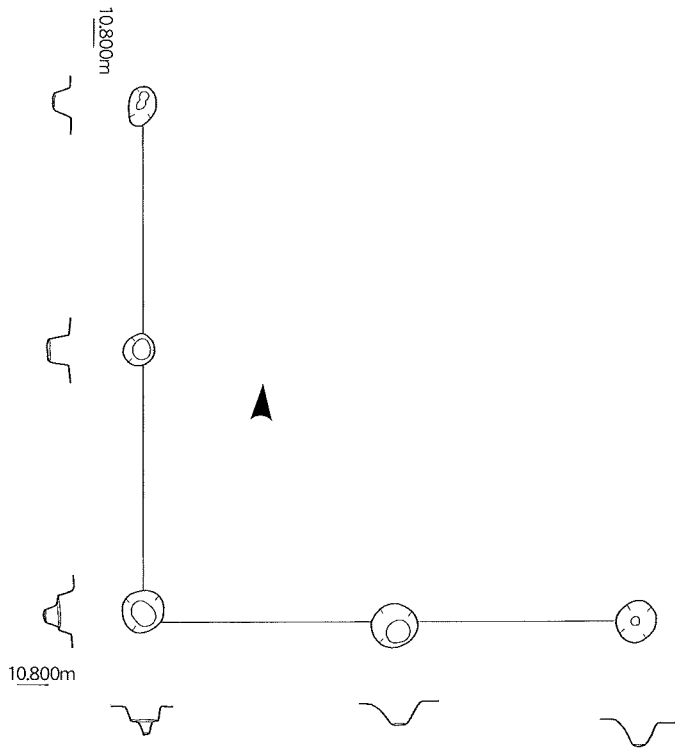
第30图 第3地点 SB-2图 (S=1/60)



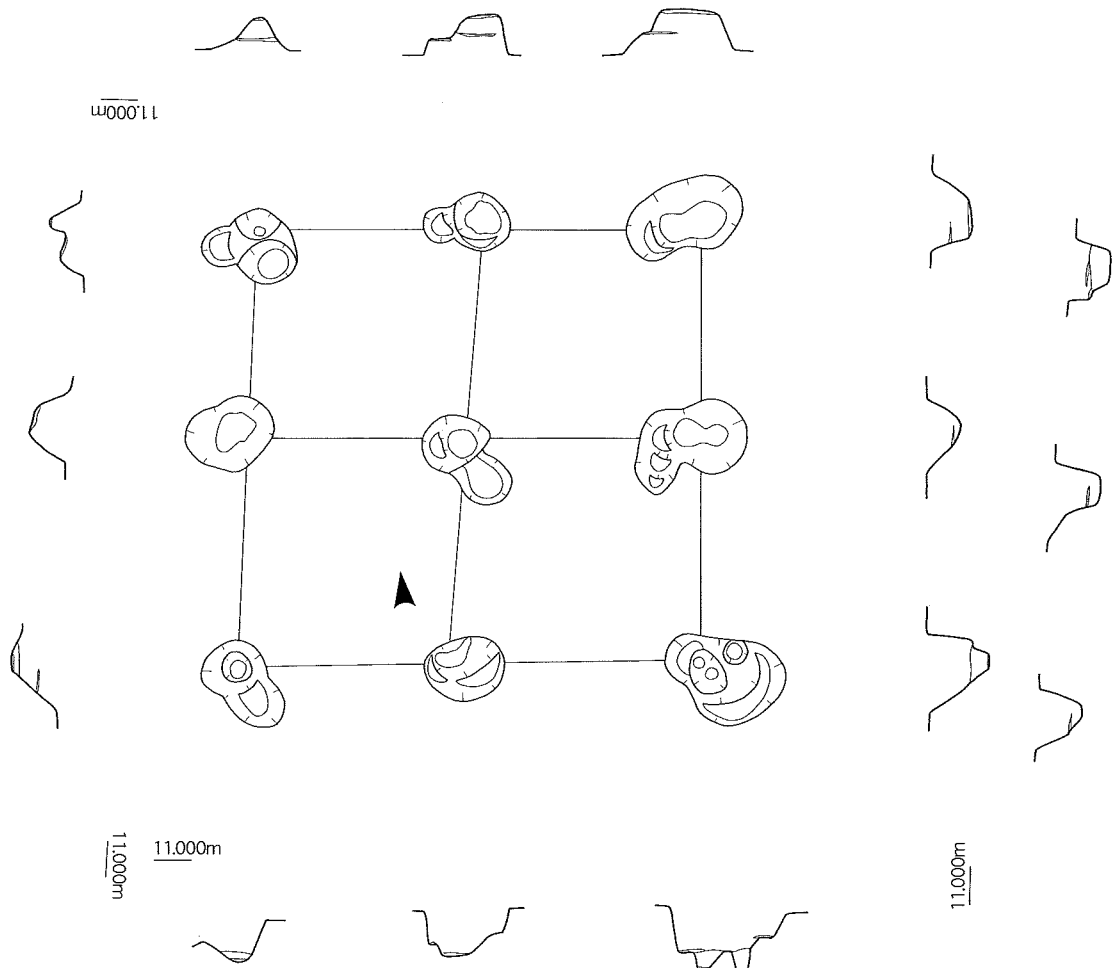
第31图 第3地点 SB-3图 (S=1/60)



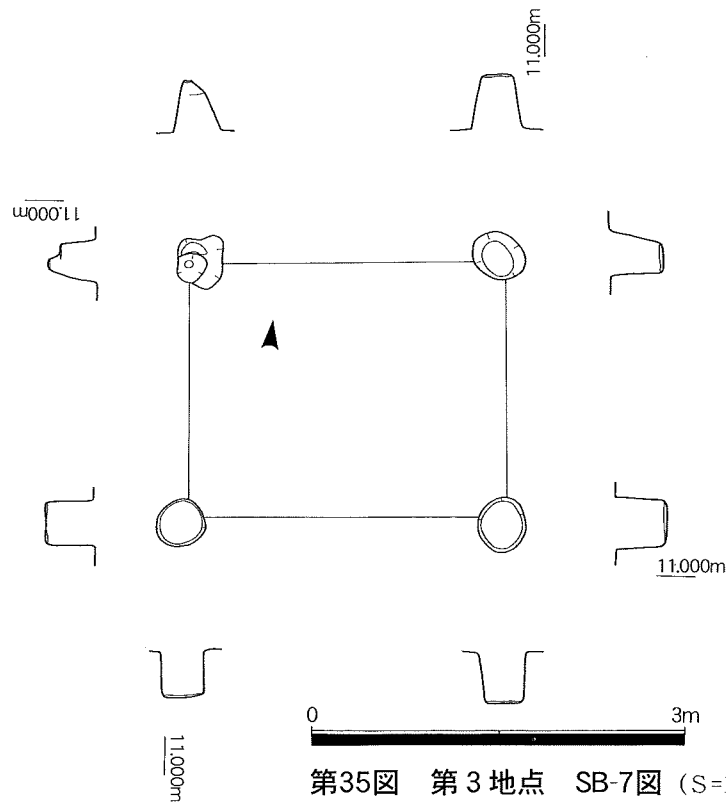
第32图 第3地点 SB-4图 (S=1/60)



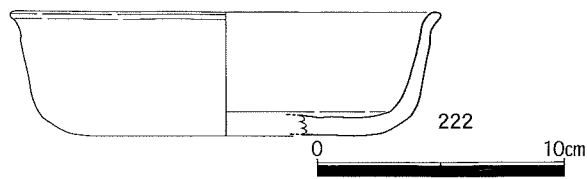
第33图 第3地点 SB-5图 (S=1/60)



第34图 第3地点 SB-6图 (S=1/60)



第35図 第3地点 SB-7図 (S=1/60)



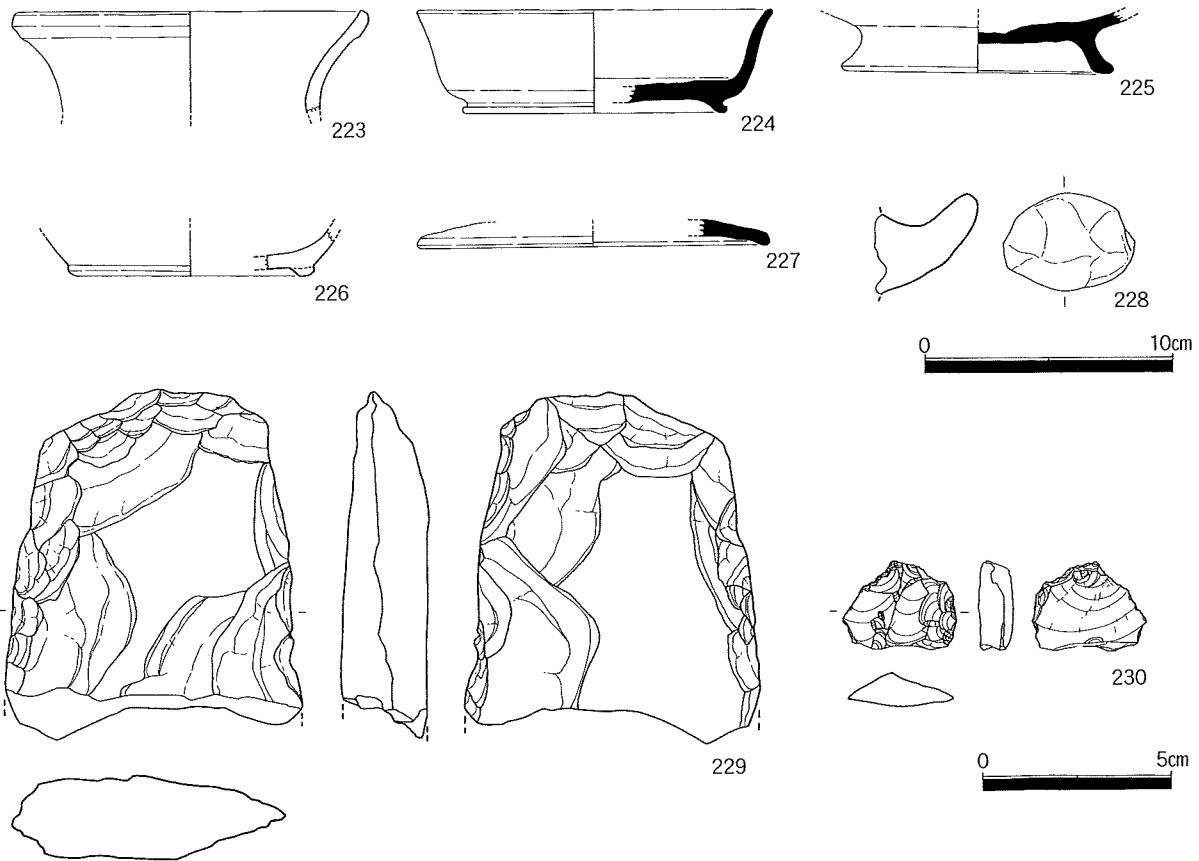
第36図 第3地点 SB-7出土遺物 (S=1/3)

SX遺構

SX-1の埋土は黒色と黄褐色の土が入り混じる。出土遺物は1点もない。風倒木の痕跡か。SX-2は溝状の遺構か。遺構の底は凹凸が著しい。SX-3、SX-4もSX-2と同様である。出土遺物は小片で僅かである。

第3地点出土遺物

223は土師器の口縁部である。復元口径13.6cmを測る。224、225は須恵器の高台付坏である。224は復元口径14.1cm、復元底径10.4cm。口縁端部は外反する。225は復元底径10.4cm。高台は外反し端部は丸い。226は土師器の高台付坏である。復元底径8.8cm。227は須恵器の坏蓋である。復元口径13.7cm。228は土師器の取手である。229は打製石斧。石材は安山岩である。230は姫島産の黒曜石。使用痕のある剥片である。



第37図 第3地点 調査区出土遺物 (S=1/3) 石器 (S=1/2)

(5) 遺物観察表

No.	出土遺構	種類	器種	法量 (cm)					胎土	色調	調整	備考
				口径	器高	底径	受部径	高台径				
1	67トレ	土師器	甕	(14.2)	(4.3)				角閃石、白色粒	内:暗褐色 外:橙褐色	内:ナデ 外:ナデ	反転復元
2	67トレ	須恵器	不明・口縁部	(17.0)	(3.65)				白色粒、角閃石	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
3	67トレ	須恵器	甕	(25.0)	(5.1)				角閃石、白色粒	内:灰白色 外:灰白色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元、接合痕あり
4	67トレ	須恵器	不明・口縁部	(16.2)	(3.8)				角閃石、白色粒	内:淡灰色 外:灰褐色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
5	67トレ	須恵器	甕	(21.0)	(4.25)				角閃石	内:暗灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元、内面に付着物(色調:黒灰色)多量にあり、 外面に自然釉(色調:黒灰色)一部あり
6	67トレ	須恵器	甕	(16.6)	(4.0)				白色粒、長石、 角閃石	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元、外面ヘラ記号「 」
7	67トレ	須恵器	甕	(25.0)	(4.0)				角閃石、白色粒	内:暗灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
8	87トレ	須恵器	不明・口縁部	(19.1)	(3.0)				白色粒、長石、 黒色粒	内:暗灰色 外:暗灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
9	67トレ	須恵器	不明・口縁部		(2.35)				白色粒	内:暗灰色 外:暗灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	
10	67トレ	須恵器	甕口縁部		(4.0)				黒色破裂粒、 白色粒	内:灰色 外:暗灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	
11	67トレ	土師器	不明・口縁部		(2.7)				角閃石	内:暗黄褐色 外:黄褐色	内:ナデ 外:ナデ	内面黒斑
12	67トレ	土師器	不明・口縁部		(3.1)				石英、角閃石、 長石、赤褐色粒	内:淡橙褐色 外:淡橙褐色	内:ナデ 外:ナデ	
13	67トレ	土師器	不明・口縁部		(2.8)				長石、角閃石、 白色粒	内:淡橙褐色 外:淡橙褐色	内:ナデ 外:ナデ	
14	67トレ	土師器	不明・口縁部		(3.2)				角閃石、長石、 赤褐色粒	内:淡橙褐色 外:淡橙褐色	内:ナデ 外:ナデ	
15	67トレ	土師器	不明・口縁部		(3.9)				石英、長石	内:橙褐色 外:黄褐色	器面荒れの為不明	
16	67トレ	土師器	不明・口縁部		(3.1)				石英、赤褐色粒、 長石、角閃石	内:淡橙褐色 外:橙褐色	内:ナデ 外:ナデ	
17	67トレ	土師器	不明・口縁部		(4.55)				長石、角閃石、 白色粒、赤褐色粒	内:淡橙褐色 外:淡橙褐色	器面荒れの為不明	
18	67トレ	土師器?	不明・口縁部		(2.0)				白色粒、角閃石、 赤褐色粒	内:赤褐色 外:赤褐色	器面荒れの為不明	
19	1トレ	瓦質土器	不明・口縁部		(4.6)				長石、角閃石	内:黒灰色 外:黒灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、ヘラケズリ	接合痕あり
20	67トレ	瓦質土器	不明・口縁部		(3.4)				長石、角閃石	内:灰色 外:灰色	器面荒れの為不明	
21	81トレ	瓦質土器	不明・口縁部		(4.15)				白色粒、長石、 角閃石	内:黒灰色 外:灰白色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ、ヘラケズリ	接合痕あり
22	75トレ	須恵器	甕		(3.8)				白色粒	内:暗灰色 外:灰色	内:回転ナデ、当具痕 外:回転ナデ、ハケ目	
23	67トレ	須恵器	壺	(21.2)	(14.2)				角閃石、 黒色破裂粒	内:灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ、当具痕 外:回転ナデ、格子目タキ後ナデ	反転復元、内外面に付着物多量あり
24	67トレ	土師器	坏身		(2.6)				角閃石、 赤褐色粒	内:淡黄褐色 外:淡黄褐色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	一部合成
25	67トレ	須恵器	坏身		(1.7)				白色粒	内:灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	
26	67トレ	須恵器	坏身		(2.9)		(12.0)		角閃石、白色粒	内:灰白色 外:淡黄褐色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元、焼成不良
27	67トレ	須恵器	坏身		(2.2)				長石	内:灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	内面に自然釉(色調:黒灰色)あり
28	67トレ	須恵器	坏身		(2.7)				白色粒	内:暗灰色 外:暗灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	
29	67トレ	須恵器	坏身		(1.95)				黒色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	外面に自然釉(色調:黒灰色)あり
30	67トレ	須恵器	坏身		(2.85)				黒色破裂粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	
31	67トレ	須恵器	坏身	(12.4)	(4.0)				白色粒	内:灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
32	67トレ	須恵器	蓋	(11.0)	(3.5)				角閃石、白色粒	内:淡黄褐色 外:淡黄褐色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ、ナデ	反転復元、焼成不良
33	67トレ	須恵器	蓋	(7.9)	(1.75)		(9.9)		白色粒、 黒色破裂粒	内:灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、回転ヘラケズリ	反転復元
34	71トレ	須恵器	蓋	(6.8)	(1.9)		(9.2)		白色粒、 黒色破裂粒	内:暗灰色 外:灰色	内:ナデ、回転ナデ 外:ナデ、回転ナデ	反転復元
35	67トレ	須恵器	蓋	(10.0)	2.25		(12.4)		白色粒	内:灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、回転ヘラケズリ	反転復元
36	67トレ	土師器	高坏底部		(2.3)				角閃石	内:淡橙褐色 外:暗橙褐色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ	反転復元

No.	出土遺構	種類	器種	法量 (cm)					胎土	色調	調整	備考
				口径	器高	底径	受部径	高台径				
37	67トレ	須恵器	高坏?		(4.4)				白色粒	内:灰色 外:灰色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ、回転ヘラケスリ	一部反転復元
38	67トレ	須恵器	不明・底部		(2.5)				角閃石、白色粒	内:灰色 外:灰色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ	一部反転復元
39	67トレ	須恵器	不明・脚部		(1.65)	(10.4)			白色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元、外面に自然釉(色調:黒灰色)あり
40	67トレ	須恵器	不明・脚部		(2.0)	(9.6)			黒色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
41	67トレ	須恵器	不明・脚部		(2.1)				角閃石	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	外面自然釉あり
42	67トレ	須恵器	高坏脚部		(5.3)	8.2			角閃石、長石	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ、シボリ痕 外:回転ナデ	
43	67トレ	須恵器	高坏脚部		(8.6)				白色粒、長石	内:赤灰色 外:灰色	内:回転ナデ、シボリ痕 外:回転ナデ	反転復元、一部合成
44	67トレ	須恵器	高坏脚部		(7.4)				角閃石、黒色破 裂粒、白色粒	内:赤灰色 外:赤灰色	内:シボリ痕、回転ナデ 外:回転ナデ	一部合成
45	67トレ	須恵器	高坏脚部		(5.0)				白色粒、長石	内:灰色 外:赤灰色	内:回転ナデ、シボリ痕 外:回転ナデ	一部反転復元
46	67トレ	須恵器	高坏脚部		(4.8)				白色粒	内:灰色 外:灰色	内:回転ナデ、シボリ痕 外:回転ナデ	反転復元
47	67トレ	須恵器	高坏脚部		(4.7)				長石	内:灰黄色 外:灰黄色	内:ナデ、シボリ痕 外:回転ナデ	反転復元、焼成不良
48	67トレ	須恵器	高坏脚部		(4.7)				長石	内:灰黄色 外:灰黄色	内:ナデ、シボリ痕 外:回転ナデ	反転復元、焼成不良
49	67トレ	須恵器	不明・底部		(4.7)	(5.0)			角閃石、白色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、工具ナデ	反転復元
50	67トレ	須恵器	不明・底部		(2.3)	(7.4)			白色粒、角閃石	内:暗灰色 外:赤灰色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ、手持ちヘラ ケスリ、雑なナデ	反転復元
51	67トレ	須恵器	不明・底部		(2.6)	(10.0)			角閃石	内:淡黄褐色 外:暗灰色	内:ナデ 外:回転ナデ、回転ヘラケ スリ	反転復元
52	67トレ	須恵器	不明・体部		(7.1)	(8.2)			角閃石、白色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、回転ヘラケ スリ、ナデ	反転復元
53	67トレ	弥生土器	不明・底部		(2.5)	5.8			角閃石、長石、 白色粒	内:一 外:橙褐色	内:不明 外:ナデ	接合痕あり
54	67トレ	土師器	土錘?						長石、角閃石、 白色粒	暗橙褐色	ナデ	最大長(7.2)、最大幅(1.6)、スス付着
55	67トレ	土師器	甌取手		(8.1)				石英、長石	内:橙褐色 外:橙褐色	内:ナデ 外:指オサ工後ナデ	
56	67トレ	土師器	甌取手		(8.0)				石英、雲母	内:橙褐色 外:橙褐色	内:ハケ目 外:指ナデ	
57	67トレ	土師器	甌取手		(3.4)				角閃石、白色粒、 長石	内:橙褐色 外:橙褐色	内:ナデ 外:指オサ工後ナデ	
58	2地点 SH-1	土師器	不明・口縁部	(17.3)	(4.1)				長石、角閃石	内:淡橙褐色 外:橙褐色	器面荒れの為不明	反転復元
59	2地点 SH-1	土師器	不明・口縁部		(5.5)				長石、角閃石	内:橙褐色 外:橙褐色	器面荒れの為不明	
60	2地点 SH-1	土師器	不明・口縁部		(3.1)				角閃石、長石、 赤褐色粒	内:橙褐色 外:橙褐色	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	
61	2地点 SH-1	土師器	不明・口縁部		(3.5)				長石、角閃石	内:淡橙褐色 外:橙褐色	器面荒れの為不明	
62	2地点 SH-1	須恵器	坏身	(12.6)	(4.1)				角閃石	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
63	2地点 SH-1	須恵器	坏身	(13.8)	(2.45)				白色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
64	2地点 SH-1	土師器 (R子71場)	小甕	6.1	5.6~ 6.2	4.2			角閃石、長石、 白色粒	内:暗橙褐色 外:暗橙褐色	内:指オサ工後ナデ、指ナデ 外:指オサ工後ナデ、ナデ	外面に黒斑あり、手づくね
65	2地点 SH-1	土師器	土錘						長石、石英、 角閃石	暗橙褐色	ナデ	最大長(3.3cm)、最大幅(1.8cm)
66	2地点	土師器	土錘						長石、角閃石	橙褐色	ナデ	最大長7.25cm、最大幅1.65cm
67	2地点	土師器	不明・口縁部		(5.7)				石英	内:淡橙褐色 外:淡橙褐色	器面荒れの為不明	一部合成
68	2地点	須恵器	坏身	(11.3)	(2.2)		(13.6)		白色粒	内:灰白色 外:灰白色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
69	3地点 SK-1	土師器	甕	(42.4)	(4.3)				長石、角閃石、 石英、赤褐色粒	内:淡橙褐色 外:淡橙褐色	内:器面荒れの為不明 外:ヨコナデ、ナデ	反転復元、外面にスス付着
70	3地点 SK-1	土師器	甕	(24.7)	(4.1)				角閃石、長石、 白色粒	内:赤褐色 外:淡橙褐色	内:ヨコナデ、ナデ 外:器面荒れの為不明	反転復元
71	3地点 SK-1	土師器	甕	(18.7)	(8.8)				角閃石、長石、 白色粒	内:淡橙褐色 外:淡橙褐色	器面荒れの為不明	反転復元
72	3地点 SK-1	土師器	甕口縁部		(4.4)				長石、角閃石、 白色粒	内:淡橙褐色 外:淡橙褐色	器面荒れの為不明	

No.	出土遺構	種類	器種	法量 (cm)					胎土	色調	調整	備考
				口径	器高	底径	受部径	高台径				
73	3地点 SK-1	土師器	甕口縁部		(2.4)				長石、角閃石、白色粒	内: 橙褐色 外: 橙褐色	内: ヨコナデ、ナデ 外: ヨコナデ、ハケ目	
74	3地点 SK-1	土師器	不明・口縁部		(2.35)				白色粒、長石、角閃石	内: 淡橙褐色 外: 淡橙褐色	内: ヨコナデ 外: ヨコナデ	反転復元
75	3地点 SK-1	土師器	甕	(20.6)	(2.2)				長石、角閃石	内: 淡橙褐色 外: 淡橙褐色	内: ヨコナデ 外: ヨコナデ	反転復元
76	3区 SK-1 P-3	土師器	甕	(12.6)	(4.6)				長石、角閃石、白色粒	内: 明橙褐色 外: 明橙褐色	内: ナデ 外: ナデ、ヨコナデ、ハケ目?	
77	3区 SK-1	土師器	不明・口縁部		(4.4)				長石、角閃石	内: 淡橙褐色 外: 淡橙褐色	器面荒れの為不明	
78	3区 SK-1 P-18	土師器	甕口縁部		(5.6)				長石、角閃石	内: 淡橙褐色 外: 淡橙褐色	内: 器面荒れの為不明 外: ヨコナデ、器面荒れの為不明	反転復元
79	3区 SK-1 P-10	土師器	不明・口縁部	(18.3)	(1.1)				長石、角閃石、白色粒	内: 橙褐色 外: 橙褐色	内: ヨコナデ 外: ヨコナデ	
80	3地点 SK-1	土師器	不明・口縁部		(6.0)				白色粒、長石、角閃石	内: 淡橙褐色 外: 淡橙褐色	器面荒れの為不明	
81	3地点 SK-1	土師器	不明・口縁部		(3.3)				長石、角閃石	内: 淡橙褐色 外: 淡橙褐色	内: ヨコナデ 外: ヨコナデ	
82	3地点 SK-1	土師器	不明・口縁部		(1.6)				長石、角閃石、白色粒	内: 暗橙褐色 外: 橙褐色	内: ナデ 外: ナデ	
83	3地点 SK-1	須恵器	坏身		(3.7)				白色粒	内: 灰色 外: 灰色	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	
84	3地点 SK-1	須恵器	坏身		(2.5)				白色粒	内: 淡灰色 外: 灰色	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ	
85	3地点 SK-1	須恵器	坏身?		(2.8)				白色粒、角閃石	内: 淡灰色 外: 淡灰色	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	
86	3地点 SK-1	須恵器	坏身		(2.3)				角閃石、白色粒	内: 灰色 外: 灰色	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	
87	3地点 SK-1	須恵器	坏身		(3.1)				白色粒	内: 淡灰色 外: 黒灰色	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	
88	3地点 SK-1	須恵器	坏身		(3.5)				白色粒	内: 灰白色 外: 灰白色	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	
89	3地点 SK-1	須恵器	坏身		(1.8)				白色粒	内: 灰色 外: 灰色	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	
90	3地点 SK-1	土師器	坏身		(4.8)				白色粒、長石、角閃石	内: 明橙褐色 外: 明橙褐色	内: ヨコナデ 外: 器面荒れの為不明	
91	3地点 SK-1	土師器	坏身		(2.5)				長石、角閃石、赤褐色粒	内: 淡橙褐色 外: 橙褐色	内: ヨコナデ 外: ヨコナデ	
92	3地点 SK-1	土師器	椀	(18.4)	(6.1)				角閃石、長石	内: 淡橙褐色 外: 明橙褐色	内: ナデ 外: ナデ	反転復元
93	3地点 SK-1	土師器	椀	(15.6)	(4.0)				長石、角閃石、白色粒	内: 橙褐色 外: 暗橙褐色	内: ヨコナデ 外: ヨコナデ	反転復元
94	3地点 SK-1	須恵器	坏身	(13.8)	3.6	(10.2)			白色粒	内: 淡灰色 外: 淡灰色	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、雑なナデ	反転復元
95	3地点 SK-1	須恵器	坏身	(13.4)	(2.6)				角閃石、長石、白色粒	内: 淡灰色 外: 淡灰色	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	反転復元
96	3地点 SK-1	須恵器	坏身	14.0	3.9	8.0			白色粒、黒色粒	内: 淡灰色 外: 淡灰色	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ナデ	
97	3地点 SK-1	須恵器	坏身	(13.0)	3.15	(9.2)			白色粒、角閃石粒	内: 淡灰色 外: 淡灰色	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、雑なナデ?	反転復元
98	3地点 SK-1	須恵器	坏身	(13.9)	3.7	(10.4)			角閃石、長石	内: 灰白色 外: 灰褐色	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ナデ	反転復元、焼成やや不良
99	3地点 SK-1	須恵器	坏身	(12.9)	3.1				白色粒、角閃石	内: 淡灰色 外: 淡灰色	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	反転復元
100	3地点 SK-1	須恵器	坏身	(14.6)	3.6	(9.4)			角閃石、白色粒	内: 淡灰色 外: 淡灰色	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ナデ	反転復元
101	3地点 SK-1	須恵器	坏身	(14.7)	(4.1)	(10.0)			白色粒、角閃石	内: 淡灰色 外: 淡灰色	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ナデ	反転復元
102	3地点 SK-1	須恵器	高台付坏	18.8	6.65		11.6		白色粒、石英、角閃石	内: 淡灰色 外: 淡灰色	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、雑なナデ	
103	3地点 SK-1	須恵器	高台付坏	13.0~14.4	4.1~4.8		8.0		白色粒	内: 灰色 外: 灰色	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、雑なナデ	器形ひずみあり
104	3地点 SK-1	須恵器	高台付坏	(14.1)	4.4		(9.0)		石英	内: 灰色 外: 灰色	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、ナデ	反転復元
105	3地点 SK-1	土師器	高台付坏	(2.6)			(10.2)		長石、角閃石、赤褐色粒	内: 淡橙褐色 外: 橙褐色	内: 器面荒れの為不明 外: 器面荒れの為不明、ヨコナデ	反転復元、外面に赤彩?あり
106	3地点 SK-1	須恵器	蓋?	(2.7)					白色粒、黒色粒	内: 灰白色 外: 灰白色	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	
107	3地点 SK-1	須恵器	蓋	(1.35)					白色粒	内: 灰色 外: 灰色	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	
108	3地点 SK-1	須恵器	蓋?	(1.8)					白色粒、黒色粒	内: 淡灰色 外: 淡灰色	内: ナデ、回転ナデ 外: 回転ナデ、ナデ、回転ナデ	反転復元

No.	出土遺構	種類	器種	法量(cm)					胎土	色調	調整	備考
				口径	器高	底径	受部径	高台径				
109	3地点SK-1	須恵器	蓋		(1.0)				黒色粒	内:灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナズリ後回転ナデ、 回転ナデ	
110	3地点SK-1	須恵器	蓋		(1.1)				角閃石、白色粒	内:灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:ナデ、回転ナデ	反転復元
111	3地点SK-1	須恵器	蓋	15.4	2.55				角閃石、白色粒、 石英	内:淡灰色 外:灰色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ、回転ヘラケ ズリ	
112	3地点SK-1	須恵器	高坏		(5.6)				長石、白色粒、 石英、角閃石	内:灰色 外:灰色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ、沈線	一部反転復元
113	3地点SK-1	須恵器	高坏		(2.4)				白色粒	内:淡橙褐色 外:灰褐色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元、内面にヘラ記号?「×」、焼成不良
114	3区SK-1 P-13	須恵器	不明・頸部		(7.5)				長石、白色粒、 角閃石	内:灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	接合痕あり
115	3区SK-1	須恵器	不明・脚部		(1.4)	(8.1)			白色粒	内:暗灰色 外:暗灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
116	3区SK-1	須恵器	不明・口縁部		(2.2)				白色粒	内:暗灰色 外:赤灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、沈線、櫛描 波状文	
117	3地点SK-1	須恵器	不明・底部		(2.3)	(6.8)			白色粒、黒色粒	内:灰色 外:赤灰色	内:回転ナデ 外:ヘラケズリ、回転ナデ	反転復元
118	3地点SK-1	土師器	甌取手	(7.8)	(4.65)				長石、角閃石、 白色粒	内:淡橙褐色 外:明橙褐色	内:ナデ 外:ナデ、指オサ工後ナデ	
119	3地点SK-1	土師器	蛸壺		(5.8)				白色粒、角閃石、 石英	内:淡橙褐色 外:橙褐色	内:ナデ 外:ナデ	穿孔あり
120	3地点SK-1	土師器	蛸壺?		(4.1)				長石、石英、 角閃石	内:暗橙褐色 外:橙褐色	内:ナデ 外:器面荒れの為不明	
121	3地点SK-1	土師器	不明・口縁部		(6.0)				白色粒、長石、 角閃石	内:灰褐色 外:灰褐色	内:ヨコナデ、ナデ 外:器面荒れの為不明	
122	3地点SK-1	土師器	土錘						長石、角閃石	淡橙褐色	ナデ	最大長(4.8cm)、最大幅(1.25cm)
123	3地点SK-1	土師器	土錘						白色粒、角閃石、 長石	暗褐色	ナデ	最大長(3.95cm)、最大幅(1.5cm)
124	3地点SK-1	土師器	土錘						角閃石	暗橙褐色	ナデ	最大長(4.0cm)、最大幅(1.5cm)
125	3地点SK-1	土師器	土錘						角閃石、長石	橙褐色	ナデ	最大長(5.3cm)、最大幅(1.5cm)
126	3地点SK-1	土師器	土錘						石英、角閃石、 白色粒	暗橙褐色	ナデ	最大長(4.8cm)、最大幅(1.35cm)、上部に穿孔?
127	3地点SK-2	土師器	甕	(19.0)	(12.6)				長石、角閃石、 石英	内:淡橙褐色 外:橙褐色	器面荒れの為不明	反転復元
128	3地点SK-2	須恵器	坏身		(2.9)				白色粒、角閃石	内:灰褐色 外:暗灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	
129	3地点SK-2	須恵器	蓋	(7.6)	(1.7)		(10.0)		白色粒、 黒色破裂粒	内:灰色 外:灰色	内:回転ナデ、ナデ 外:雑なナデ、回転ナデ	反転復元
130	3地点SK-2	須恵器	蓋	(9.4)	(1.6)		(12.2)		黒色破裂粒	内:灰褐色 外:灰褐色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、回転ヘラケ ズリ	反転復元
131	3地点SK-2	須恵器	蓋	(15.2)	(1.9)				白色粒	内:淡灰色 外:灰色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ、ナデ、回転 ヘラケズリ	反転復元
132	3地点SK-2	須恵器	不明・底部		(1.3)				白色粒	内:灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、回転ヘラケ ズリ	接合痕あり
133	3地点SK-2	須恵器	高坏?脚部		(2.2)	(9.0)			白色粒、角閃石	内:灰褐色 外:灰褐色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
134	3地点SK-3	土師器	甕・口縁部		(7.2)				角閃石、長石	内:淡黄褐色 外:淡黄褐色	器面荒れの為不明	
135	3地点SK-3	土師器	甕・口縁部		(4.7)				長石、角閃石	内:暗橙褐色 外:暗橙褐色	内:ヨコナデ、手持ちヘラ ケズリ 外:ヨコナデ、ナデ	
136	3地点SK-3	土師器	甕・口縁部		(3.8)				長石、角閃石、 白色粒	内:橙褐色 外:橙褐色	内:ナデ 外:ヨコナデ、ナデ	
137	3地点SK-3	土師器	甕・口縁部		(4.9)				長石、角閃石、 白色粒	内:暗橙褐色 外:暗橙褐色	内:ナデ 外:ヨコナデ、ナデ	
138	3地点SK-3	土師器	甕・口縁部		(2.4)				長石、角閃石、 白色粒	内:橙褐色 外:橙褐色	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	
139	3地点SK-3	土師器	甕・口縁部		(6.1)				白色粒、黒色粒	内:淡黄褐色 外:淡黄褐色	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	
140	3地点SK-3	土師器	不明・口縁部		(5.3)				長石、角閃石	内:橙褐色 外:暗橙褐色	内:器面荒れの為不明 外:ヨコナデ、ナデ	一部合成
141	3地点SK-3	土師器	甕	(21.2)	(6.1)				白色粒、長石、 角閃石	内:橙褐色 外:橙褐色	内:ヨコナデ、ナデ 外:ヨコナデ、ナデ	反転復元
142	3区SK-3B	土師器	甕	(14.7)	(3.4)				白色粒、長石、 角閃石	内:橙褐色 外:明橙褐色	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	反転復元
143	3区SK-3 P-15	土師器	不明・口縁部		(3.0)				長石、角閃石、赤 褐色粒、白色粒	内:橙褐色 外:橙褐色	器面荒れの為不明	
144	3区SK-3	土師器	不明・口縁部		(2.6)				長石、角閃石	内:淡橙褐色 外:淡橙褐色	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	接合痕あり

No.	出土遺構	種類	器種	法量 (cm)					胎土	色調	調整	備考
				口径	器高	底径	受部径	高台径				
145	SK-3 P-40	須恵器	甕	(22.2)	(2.0)				黒色破裂粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
146	SK-3 P-27	土師器	不明・口縁部	(13.8)	(4.2)				白色粒、長石、 角閃石	内:暗褐色 外:褐色	内:ナデ 外:器面荒れの為不明	反転復元
147	3地点 SK-3	須恵器	長頸壺 口縁部?	(10.4)	(9.6)				白色粒	内:赤褐色 外:赤褐色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	一部反転復元、一部自然釉あり
148	3地点 SK-3	須恵器	不明・口縁部	(9.5)	(2.0)				白色粒	内:暗灰色 外:暗灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元、外面に自然釉(色調:黒灰色)あり
149	3地点 SK-3	須恵器	壺	(11.7)	(4.4)				白色粒、黒色破 裂粒	内:赤灰色 外:赤灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元、全面に赤彩
150	3地点 SK-3	須恵器	坏身		(3.35)				白色粒、黒色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、ナデ	
151	3地点 SK-3	須恵器	坏身		(5.4)				白色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	
152	3地点 SK-3	須恵器	坏身		(3.35)				白色粒	内:淡灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	
153	3地点 SK-3	須恵器	坏身		(4.05)				白色粒、角閃石	内:灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、ナデ?	外面に自然釉(色調:黒灰色)あり
154	3地点 SK-3	土師器	坏身	(13.7)	(3.9)				赤褐色粒	内:淡黄褐色 外:淡黄褐色	器面荒れの為不明	反転復元
155	3地点 SK-3	須恵器	坏身	(13.6)	(3.3)				白色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
156	3地点 SK-3	須恵器	坏身	(14.9)	(3.3)				白色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
157	3地点 SK-3	須恵器	坏身	(12.2)	(3.0)				白色粒	内:灰色 外:黒灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元、外面に自然釉(色調:黒灰色)あり
158	3地点 SK-3	須恵器	坏身	(12.0)	(3.3)				黒色破裂粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
159	3地点 SK-3	須恵器	坏身	(13.9)	3.3	(10.6)			石英、白色粒	内:灰褐色 外:灰褐色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ、ナデ	反転復元
160	3地点 SK-3	須恵器	坏身	(13.1)	(3.2)	(9.4)			白色粒、黒色破 裂粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ、ナデ	反転復元
161	3地点 SK-3	須恵器	坏身	(13.8)	(3.55)	(10.4)			角閃石、白色粒	内:淡黄褐色 外:淡黄褐色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ、ナデ	反転復元、焼成不良
162	3地点 SK-3	須恵器	坏身	(13.4)	3.6	(10.6)			白色粒	内:灰白色 外:灰白色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、ナデ	反転復元、焼成不良
163	3地点 SK-3	須恵器	坏身	(14.4)	(4.1)	(10.0)			白色粒、角閃石	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ、ナデ	反転復元
164	3地点 SK-3	須恵器	坏身	(14.1)	(3.1)	(9.8)			白色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ、雑なナデ	反転復元
165	3地点 SK-3	須恵器	坏身	(14.8)	(3.8)	(9.4)			白色粒、黒色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ、ナデ	反転復元、外面ヘラ記号?
166	3地点 SK-3	須恵器	坏身	(13.9)	3.95	(10.2)			白色粒、角閃石	内:淡黄褐色 外:淡黄褐色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ	反転復元、焼成不良
167	3地点 SK-3	須恵器	高台付坏		(1.3)				白色粒	内:灰色 外:灰色	内:ナデ 外:回転ナデ、ナデ	
168	3地点 SK-3	須恵器	高台付坏		(2.4)				灰白粒	内:淡灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	
169	3地点 SK-3	須恵器	高台付坏		(1.3)				白色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	
170	3地点 SK-3	須恵器	高台付坏		(3.0)			(9.2)	角閃石、長石、 白色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、回転ヘラケ スリ	反転復元、外面に一部自然釉あり
171	3地点 SK-3	須恵器	高台付坏		(1.6)			(9.6)	白色粒	内:灰白色 外:灰白色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ	反転復元
172	3地点 SK-3	須恵器	高台付坏		(1.8)			(9.1)	白色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
173	3地点 SK-3	須恵器	高台付坏		(3.4)			(11.1)	白色粒、石英、 黒色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ	反転復元
174	3地点 SK-3	須恵器	高台付坏		(1.3)			(9.5)	白色粒	内:灰色 外:暗灰色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ、回転ヘラケ スリ	反転復元
175	3地点 SK-3	須恵器	高台付坏		(1.3)			(8.6)	長石	内:灰白色 外:灰白色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、回転ヘラケ スリ	反転復元
176	3地点 SK-3	須恵器	高台付坏		(1.6)			(8.3)	石英	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ、ナデ	反転復元
177	3地点 SK-3	須恵器	高台付坏	(2.0)				(13.5)	角閃石、白色粒	内:淡黄褐色 外:淡黄褐色	内:器面荒れの為不明 外:回転ナデ、ナデ	反転復元、焼成不良
178	3地点 SK-3	須恵器	蓋	(13.0)	(2.7)				白色粒、黒色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
179	3地点 SK-3	須恵器	蓋		(3.1)				白色粒、黒色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	
180	3地点 SK-3	須恵器	蓋	(7.4)	1.9		(9.5)		白色粒、黒色破 裂粒	内:暗褐色 外:灰色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ、回転ヘラケ スリ後ナデ	反転復元、受部に自然釉あり

No.	出土遺構	種類	器種	法量 (cm)					胎土	色調	調整	備考
				口径	器高	底径	受部径	高台径				
181	3地点 SK-3	須恵器	蓋	(11.0)	(2.1)		(13.5)		白色粒	内:灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、回転ヘラケズリ	反転復元、外面に自然釉あり
182	3地点 SK-3	須恵器	蓋	(9.6)	(1.9)		(12.0)		白色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、回転ヘラケズリ	反転復元、一部合成
183	3地点 SK-3	須恵器	蓋	(17.0)	(1.8)				白色粒	内:淡灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
184	3地点 SK-3	須恵器	蓋	(12.8)	(2.2)				白色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:ナデ、回転ナデ 外:回転ヘラケズリ、回転ナデ	反転復元
185	3地点 SK-3	須恵器	蓋	(15.0)	(1.5)				白色粒	内:灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
186	3地点 SK-3	須恵器	蓋	(15.4)	(1.6)				白色粒	内:灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
187	3地点 SK-3	須恵器	蓋	15.35	2.1				石英、白色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ、回転ヘラケズリ	
188	3地点 SK-3	須恵器	蓋	(13.8)	(1.05)				白色粒、長石	内:灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、ナデ	反転復元
189	3地点 SK-3	土師器	蓋?		(1.1)				角閃石、長石	内:淡黄褐色 外:淡黄褐色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	
190	3地点 SK-3	須恵器	蓋?		(1.3)				白色粒	内:灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	
191	3地点 SK-3	須恵器	蓋		(1.2)				白色粒、角閃石	内:赤灰色 外:赤灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	全面に赤彩
192	3地点 SK-3	須恵器	蓋		(1.45)				黒色破裂粒	内:灰色 外:灰色	内:ナデ 外:回転ナデ	
193	3地点 SK-3	須恵器	蓋		(1.1)				白色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:ナデ 外:回転ナデ	反転復元
194	3地点 SK-3	須恵器	蓋		(1.2)				白色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ	
195	3地点 SK-3	須恵器	高坏?		(5.1)	8.5			角閃石、白色粒	内:淡灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、回転ヘラケズリ	一部合成、反転復元、一部自然釉あり
196	3地点 SK-3	須恵器	高坏		(3.8)				黒色粒、白色粒	内:灰白色 外:灰白色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ	一部反転復元
197	3地点 SK-3	須恵器	高坏脚部		(3.9)				白色粒	内:暗灰色 外:赤灰色	内:ナデ、回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
198	3地点 SK-3	須恵器	不明・脚部		(1.1)	(9.0)			白色粒	内:灰色 外:暗灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
199	3地点 SK-3	土師器	不明		(1.8)				角閃石、長石	内:橙褐色 外:橙褐色	器面荒れの為不明	
200	3地点 SK-3	須恵器	皿	(15.2)	1.9	(13.6)			角閃石、白色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ、ナデ 外:回転ナデ	反転復元
201	3地点 SK-3	土師器	皿		(1.65)				長石、角閃石	内:橙褐色 外:橙褐色	内:ヨコナデ、ナデ 外:ヨコナデ、ナデ	
202	3地点 SK-3	土師器	椀	(25.0)	(7.4)				長石、角閃石	内:淡橙褐色 外:灰褐色	内:ヨコナデ、ハケ目後ナデ 外:ヨコナデ、ハケ目、ハケ目後ナデ	反転復元
203	3地点 SK-3	土師器	椀		(7.7)				長石、角閃石	内:橙褐色 外:橙褐色	内:ナデ 外:ナデ	
204	3地点 SK-3	土師器	椀?		(9.1)				長石、角閃石	内:暗橙褐色 外:暗橙褐色	内:ヨコナデ、ナデ 外:器面荒れの為不明、ナデ	
205	3地点 SK-3	須恵器	不明・口縁部		(6.9)				長石、角閃石	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、回転ヘラケズリ	
206	3地点 SK-3	土師器	不明・底部		(4.7)				石英、角閃石、赤褐色粒	内:淡橙褐色 外:明橙褐色	内:ナデ 外:ナデ	一部反転復元
207	3区 SK-3	土師器	不明・口縁部		(3.0)				長石、角閃石	内:橙褐色 外:橙褐色	器面荒れの為不明	
208	3区 SK-3	須恵器	不明・口縁部		(3.2)				白色粒、黒色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	
209	3区 SK-3A	須恵器	不明・口縁部		(4.3)				白色粒、黒色粒	内:灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	
210	3区 SK-3	須恵器	不明・口縁部		(4.1)				白色粒	内:灰褐色 外:暗褐色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	外面に自然釉(色調:暗褐色)あり
211	3区 SK-3	須恵器	不明・口縁部		(2.0)				黒色粒	内:灰白色 外:灰白色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	焼成不良
212	3区 SK-3	須恵器	不明・口縁部		(2.7)				白色粒、黒色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	
213	3区 SK-3	土師器?	不明・底部		(1.9)	(7.9)			赤褐色粒	内:灰白色 外:淡黄褐色	器面荒れの為不明	反転復元
214	3地点 SK-3	土師器	鉢	(12.0)	(6.2)				長石、角閃石	内:暗橙褐色 外:暗橙褐色	内:ヨコナデ、ナデ 外:ヨコナデ、指ナデ、ナデ	反転復元
215	3地点 SK-3	土師器	鉢	(11.0)	(5.25)				長石、角閃石	内:淡黄褐色 外:淡黄褐色	器面荒れの為不明	反転復元
216	3地点 SK-3	土師器	甌取手?		(5.8)				角閃石、長石、白色粒	内:暗橙褐色 外:淡黄褐色	内:ナデ 外:指オサエ後ナデ	黒曜石粒(姫島産?)を含む

No.	出土遺構	種類	器種	法量(cm)					胎土	色調	調整	備考
				口径	器高	底径	受部径	高台径				
217	3地点SK-3	土師器	鉢取手?		(8.45)				角閃石、長石、白色粒	内:橙褐色 外:暗橙褐色	内:ナデ 外:指オサ工後ナデ	接合痕あり
218	3地点SK-3	土師器	不明						長石、角閃石、白色粒	橙褐色	ナデ	
219	3地点SK-3	須恵器	不明・胴部		(5.5)				白色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
220	3地点SK-3	石器	砥石									長さ11.9cm、幅3.7cm、厚さ2.6cm、重さ185.54g、石材は粘板岩
221	3地点SK-6	須恵器	高台		(1.6)			(9.8)	白色粒	内:暗灰色 外:暗灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
222	3地点SB-7	土師器	坏身	(16.4)	(4.9)	(12.5)			長石、角閃石	内:明橙褐色 外:明橙褐色	器面荒れの為不明	反転復元
223	3地点	土師器	不明・口縁部	(13.6)	(4.0)				角閃石、赤褐色粒	内:淡黄褐色 外:淡黄褐色	器面荒れの為不明	反転復元
224	3地点	須恵器	高台付坏	(14.1)	(4.05)			(10.4)	黒色粒、白色粒	内:淡灰色 外:淡灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、ナデ	反転復元
225	3地点	須恵器	高台付坏		(2.4)			(10.4)	白色粒、石英	内:灰褐色 外:灰褐色、 橙褐色	内:回転ナデ 外:回転ナデ、 回転ヘラケスリ	反転復元、焼成不良
226	3地点	土師器	高台付坏		(1.9)			(8.8)	長石、角閃石、白色粒	内:橙褐色 外:橙褐色	器面荒れの為不明	反転復元
227	3地点	須恵器	蓋	(13.7)	(1.0)				白色粒	内:淡灰色 外:灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	反転復元
228	3地点	土師器	甗取手		(3.9)				角閃石、長石	内:- 外:橙褐色	器面荒れの為不明	黒曜石粒を含む、接合痕あり
229	3地点	石器	打製石斧									長さ(9.3cm)、幅(7.9cm)厚さ2.3cm、重さ211.59g、摩滅している、石材は安山岩
230	3地点	石器	UF.									長さ2.4cm、幅3.05cm、厚さ0.95cm、重さ6.14g、石材は姫島産黒曜石

(6) 小 結

第1地点で検出された溝はSD-1、SD-3は平行に進み、幅、深さ、形状が酷似する。いずれも出土遺物がなく時期の決め手に欠けるが溝は同時期のものであろう。SD-2は埋土が異なり時期は異なるものであろう。出土遺物が極端に少ないこと、溝は現在の地形にそって進むことから溝状遺構は水田に係わるものであろう。

第2地点で検出された竪穴住居と掘立柱建物は埋土やその分布から同時期の遺構と考えられる。試掘調査時、この周辺を密にトレンチを掘り下げたが遺構を確認することができなかった。これは平成9年度調査向地区で竪穴住居が検出された地点と類似する。また時期も7世紀前半として大過はない。土坑は市内の原遺跡のありかを彷彿させる。出土遺物はなく時期は不明である。土坑はその形態から陥穴と判断した。

第3地点は掘立柱建物が7棟、土坑7基が検出された。SB-1、SB-4、SB-5、SB-6、SB-7は埋土と配列からほぼ同時期のものであろう。SB-7の柱穴から出土した土師器の杯は8世紀前半であろう。土坑はSK-1、SK-3は遺物の出土量が多く廃棄土坑であろう。SK-1の土層観察で上面に黄白色の土が確認された。土坑は埋められ整地されたものであろうか。土坑の出土遺物は8世紀中葉が主体である。試掘調査の67トレンチは第3地点の東側約50mであるが出土遺物に時期差が生じる。第3地点の南側は近代に地下げが行われ遺構を確認することができなかったが、古代集落が展開されたであろう。

<参考文献>

- | | | |
|----------------------------|------|--------------------|
| 『弥勒寺』 | 1989 | 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 |
| 『原遺跡』 | 1993 | 中津市教育委員会 |
| 『福島遺跡入垣地区(Ⅲ)、定留遺跡向地区』 | 1998 | 中津市教育委員会 |
| 『福島遺跡入垣地区(Ⅳ)、定留遺跡八反ガソウ地区』 | 1999 | 中津市教育委員会 |
| 『定留遺跡田畑地区、台遺跡』 | 2000 | 中津市教育委員会 |
| 『長者屋敷遺跡』 | 2001 | 中津市教育委員会 |
| 『停車場遺跡』 | 2003 | 中津市教育委員会 |
| 『諸田遺跡岩丸地区』 | 2003 | 中津市教育委員会 |
| 『古文化談叢』 第34集 豊前の6世紀～9世紀の土器 | 1995 | 九州古文化研究会 |

図版 1



試掘前風景



試掘風景



試掘風景

図版 2



試掘風景

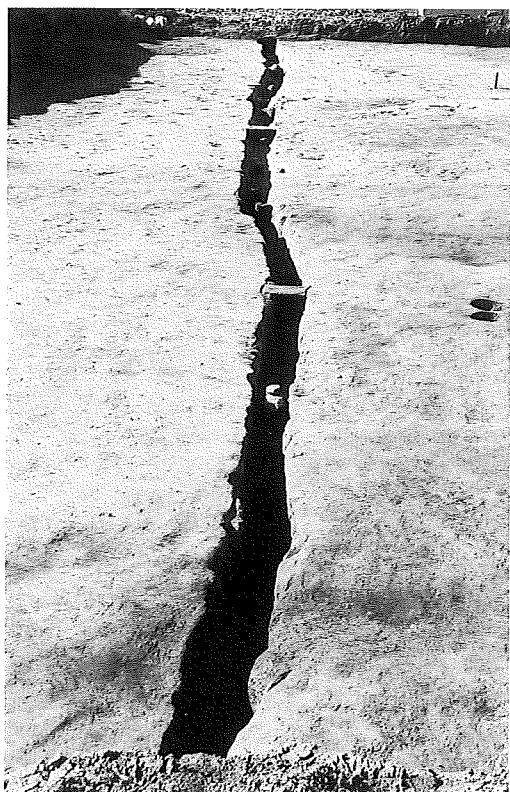


発掘風景



第 1 地点 調査区

图版 3



第 1 地点 SD-1

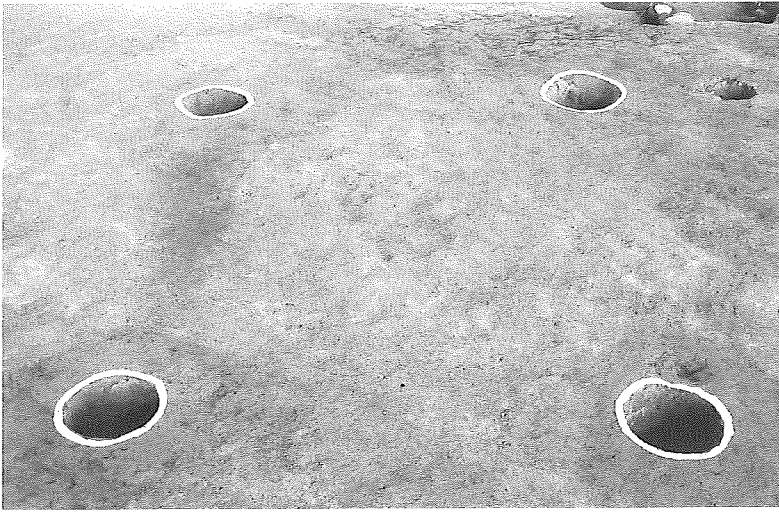


第 1 地点 SD-2



第 1 地点 SK-1

图版 4



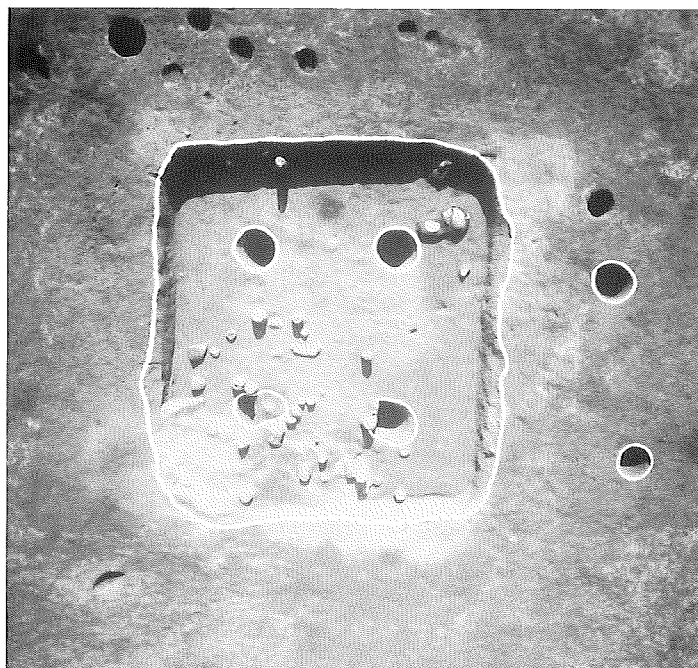
第 2 地点 SB-1



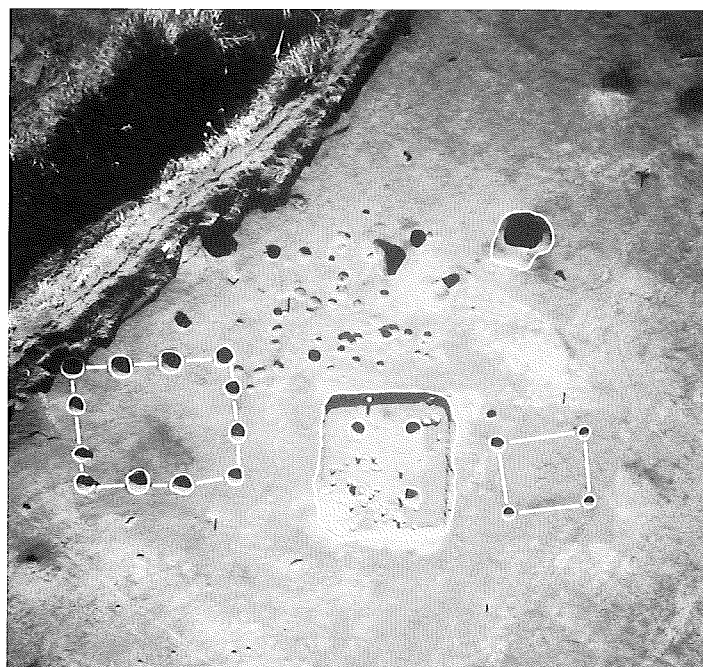
第 2 地点 SB-2



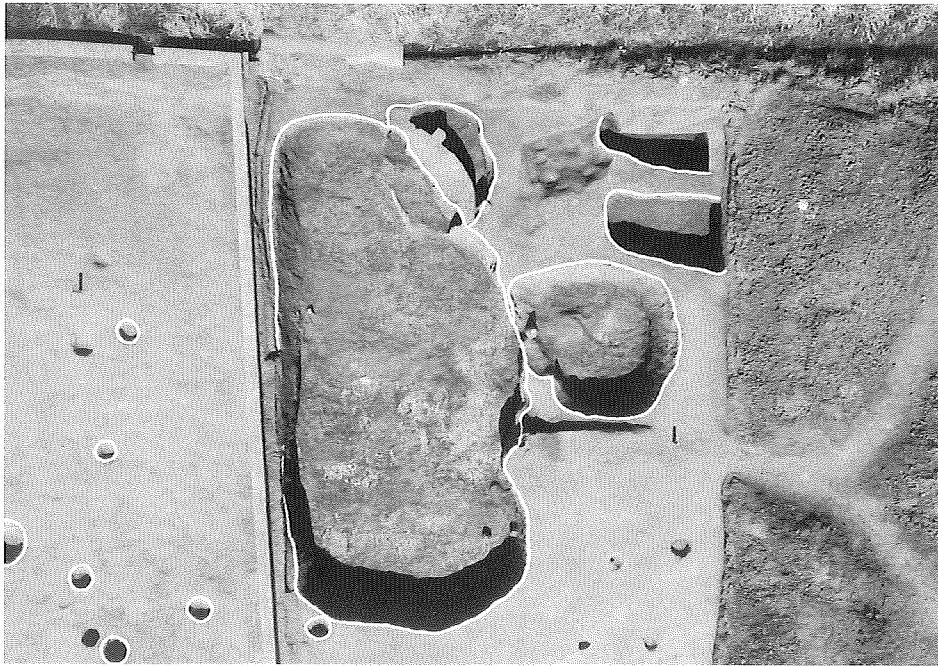
第 2 地点 SK-1



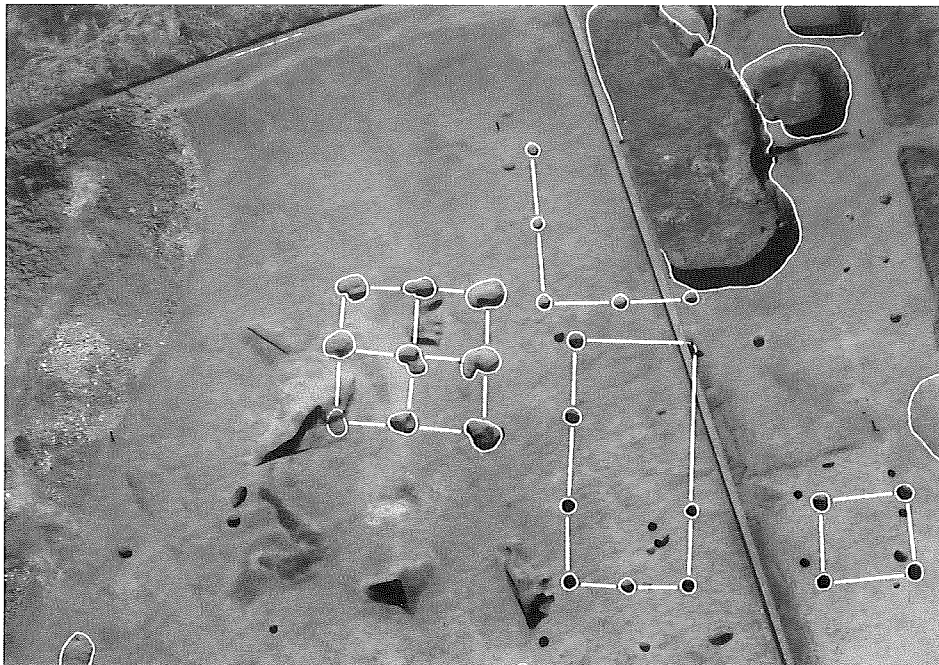
第 2 地点 SH-1



第 2 地点

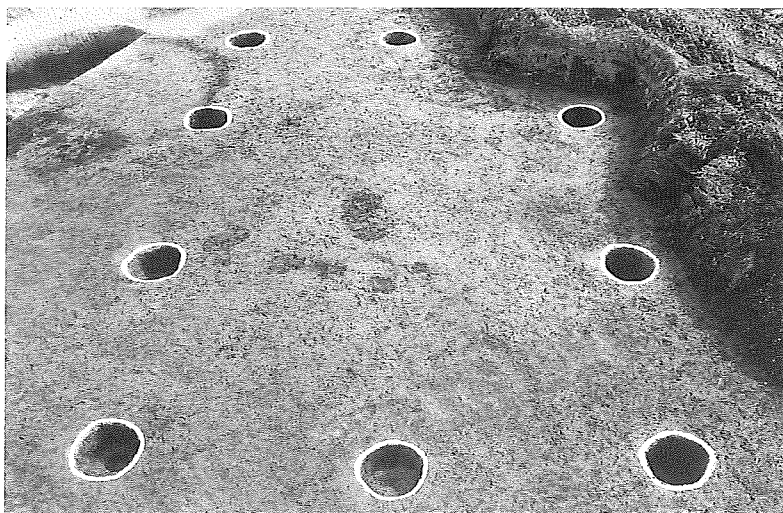


第3地点 SK-2、3、4、5、6



第3地点 SB-4、5、6、7

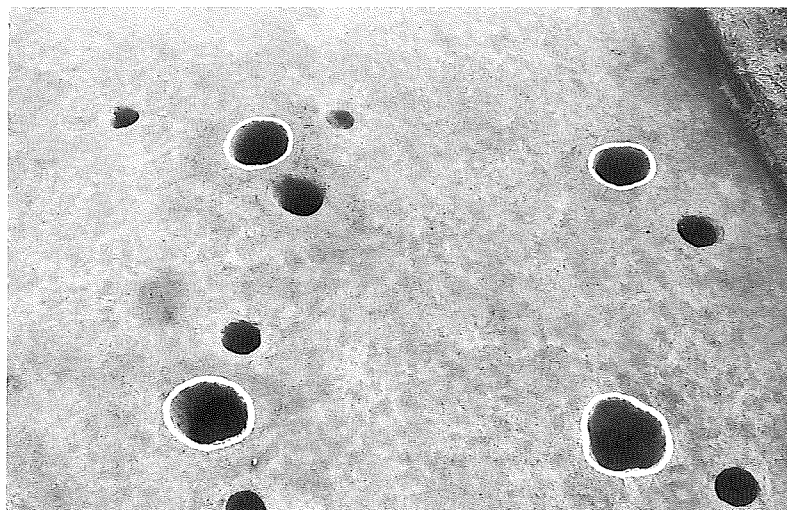
图版 7



第 3 地点 SB-1



第 3 地点 SB-6

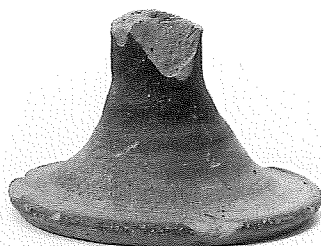


第 3 地点 SB-7

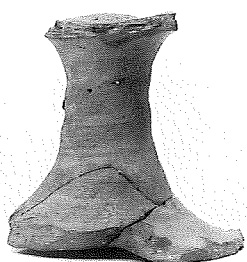
图版 8



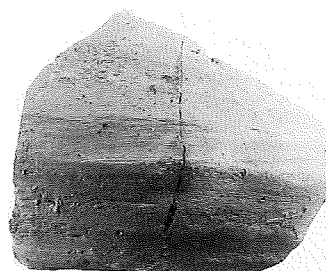
23



42



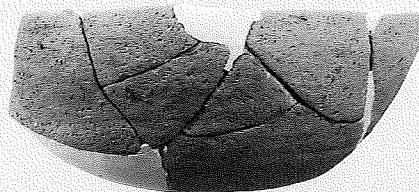
44



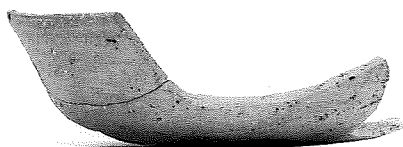
52



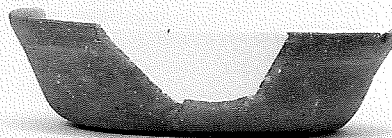
64



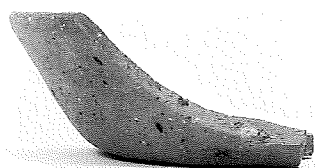
92



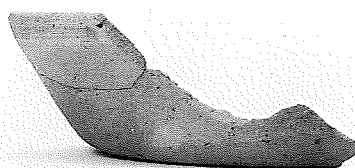
94



96



97

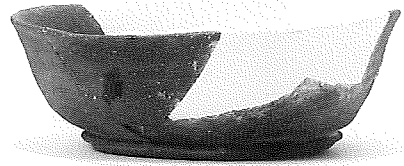


100

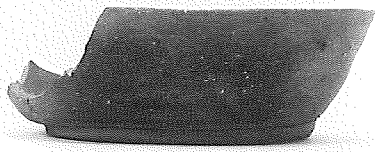
图版 9



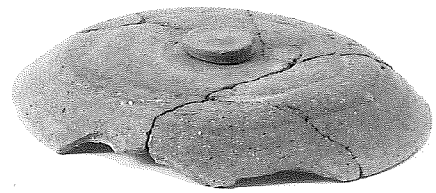
102



103



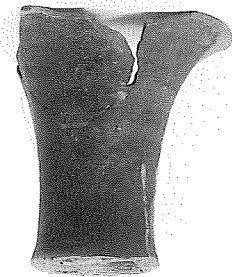
104



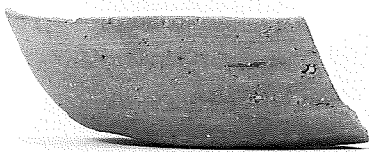
111



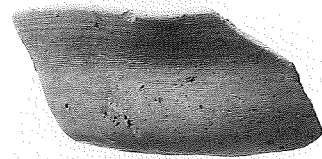
112



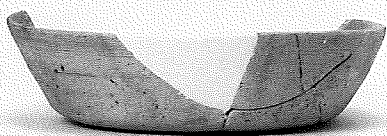
147



159



161

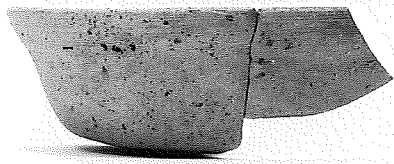


162

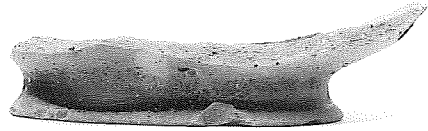


163

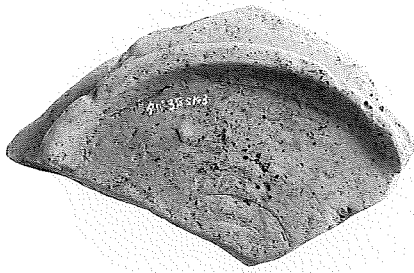
图版10



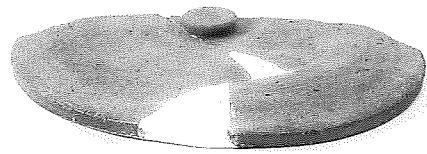
166



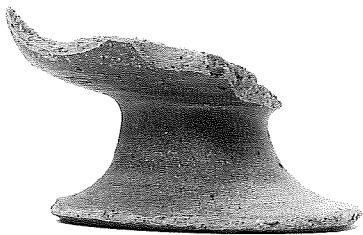
170



177



187



195



200



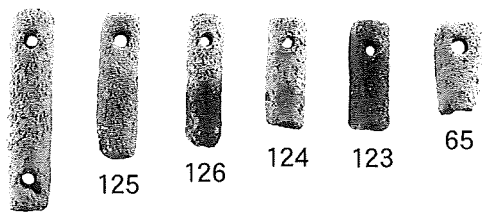
206



220



229



66

125

126

124

123

65

報 告 書 抄 録

書 名	<small>さだのみ いせき たばたち く</small> 定留遺跡田畑地区							
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名	中津市文化財調査報告							
シリーズ番号	第35集							
編 著 者 名	花崎 徹							
編 集 機 関	中津市教育委員会							
所 在 地	大分県中津市豊田町14-3							
発 行 年 月 日	2005年2月28日							
所収遺跡名	所 在 地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
定留遺跡 田畑地区第1地点	大分県中津市 大字定留1827 1842	44203	101034	33°	131°	990721	790m ²	圃場整備
				34′	14′	~		
				52″	45″	000322		
定留遺跡 田畑地区第2地点	大分県中津市 大字定留1598	44203	101034	33°	131°	990721	1,325m ²	圃場整備
				34′	14′	~		
				47″	49″	000322		
定留遺跡 田畑地区第3地点	大分県中津市 大字定留1053 1064	44203	101034	33°	131°	990721	1,250m ²	圃場整備
				34′	14′	~		
				55″	59″	000322		
所収遺跡名	種 別	時 代	遺 構	遺 物		特 記 事 項		
定留遺跡 田畑地区第1地点	水田?		溝					
定留遺跡 田畑地区第2地点	集落	古墳	竪穴住居 土坑	須恵器 土師器				
定留遺跡 田畑地区第3地点	集落	古代	掘立柱建物 土坑	須恵器 土師器				

定留遺跡田畑地区

中津市文化財調査報告 第35集

2005年2月28日

発行 中津市教育委員会

印刷 (株)川原田印刷社